

第54号

令和5年11月

関東氷上郷友会

山 女





「手を合わせて」

笹倉鉄平画／2013年 アクリル画 18.0×14.0cm

京都の奥座敷、貴船に在る「貴船神社」で、
夏の夕刻に出会ったシーンでした。
熱心に手を合わせる背中、総じて潔く美しい。
願う姿に、今、託したいのは…
平和への願いや祈り、そして想い。
どうか一日も早く届きますように…。



山
ぎ
ら

第54号

山ざる 第54号 目次

〈表紙〉笹倉鉄平画「手を合わせて」／〈扉〉写真 安井孝之

ご挨拶……岸本 勲 5

会計報告書……6

祝寿の方々ご紹介……7

《近況・エッセイ 特集 新たな挑戦》

「丹波人」を誇りに続けるチャレンジ……杉本秀和 15

通訳案内士デビュー……石橋順子 19

生涯大学2年生……岡田昌子 22

古典の読書……田中正邦 25

《インタビューコーナー》

柳川拓三さん 「春日局」に導かれ東京出店 丹波と東京を繋いでいきたい……編集部 29

《近況・エッセイ》

わが旅立ちのとき……平田岳史 34

今も忘れぬ社長の言葉……徳田邦男 38

私の家庭菜園と独り言……大野富士夫 40

気づきと自己変革……上高子 43

「これが最後と口々に言ふ」73年目の同窓会……坂上勝朗 47

音楽と私Ⅱ……頼澤豊 49

《私の職場》

「健康未来」を目指して「女性初」でがんばる……福西みのり 52

《山ざる文芸》

俳壇・詩座・歌壇……55

《丹波から》

おお我ら和田中学校……瀬川真由美 72

丹波黒井城と直正……村上正樹 75

《丹波ブランド紹介》

その14「道の駅丹波おばあちゃんの里」……古西純 79

《丹波通信》

丹波越え「おさん茂兵衛」考……荻野祐一 83

《山ざる研究》

土蔵から出てきた丹波の歴史……徳田八郎衛 88

《MY Gallery》井上巖／山本喜則……61

《簡単レシピ》石橋順子／鈴木明美……63

《丹波を撮る》……徳田八郎衛 65

ふるさとトピックス（丹波新聞）から 井徳正吾……71

BOOKS……93 会員だより……96

同窓会だより……99 インフォメーション……101

寄附者芳名……103 《協賛広告》……104 編集後記……118

猪肉を味噌煮

この世をぬく

餃子

猪肉を味噌煮この世をぬくもらむ

細見餃子「伎藝天」より
書は上田道代さん

ご挨拶

会長 岸本 勲



皆様、3年続いたコロナ禍の今日、健やかに過ごしのことと大慶に存じます。

さて、これからの日本はどうすれば世界に冠たる立派な国になれるのでしょうか。先日の新聞に掲載されたインタビュ記事

事にトヨタ自動車の佐藤恒治新社長が抱負を述べておられます。「トヨタの生産性を2倍に高める」などと言い、電気自動車の開発にも自信をみせています。喜ばしい限りです。

ここ30年間日本の生産性は先進7カ国で最下位の国力になっております。昭和から平成前半にかけて世界ナンバー1を誇った日本が、令和の時代に最下位の水準に低落してしまいました。どうやって世界に打って出るか、国民全体が考えていかなくてはならない問題であります。

「敵を知り己を知れば百戦危うべからず」と言います。国対国との戦争だけではなく、経済戦争も人間がやること。基本は一緒であります。

敵を知り、己を知り、まずは自ら自分たちのできることから始めることが肝要だと思います。

私も自分の経営する企業に立ち返り生産性の取り戻しを検討することにしました。何よりも自分たちの力を切磋琢磨す

ることが大事だと気が付いたからです。

我が社は東海道、つまりは東京と大阪との間の輸送を主体とする大型トラック数百台を運営する会社です。毎月の燃料消費量は50万ℓを超えます。高騰する燃料費の削減が生産性を大きく左右します。そこで20%の削減を企画、実行に移すことを決意しました。成功すれば年間1億3500万円の純益に貢献してくれそうです。

結果は大成功の金字塔を得ることができました。社員一丸のクリーンヒットが功を奏しました。

「勝つためには何をなすべきか」

幸い弊社の社員全員が考え、実行してくれました。その結果の勝利でありました。労働基準法を遵守することを基本に、20%の燃料削減を目標に企画立案し、燃費20%削減するための三つの基本動作を決め、愚直に実行いたしました。これはひとえに従業員一同の「やる気」に掛かっていたと思います。この取り組みは我が社の一例に過ぎません。このような小さな取り組みの積み重ねが、日本の生産性向上の実現に繋がっていくことを望むばかりです。

さて今年4年ぶりの総会を企画いたします。コロナ禍の3年間、自粛の毎日でした。コロナを克服された皆様方が一堂に会する総会です。秋の11月19日(日)に学士会館で開催いたします。会費を値上げすることなく楽しく集える総会を目指しています。大勢の会員の皆様のご参加をお願い申し上げます。

会計報告書

(2022年7月1日～2023年6月30日)

関東水上郷友会
 会計担当副会長・谷口 浩章
 理事・原谷 洋美

(単位：円)


収入の部			支出の部		
科目	金額	摘要	科目	金額	摘要
繰越金	1,689,301	郵便貯金 889,301	出版費	829,325	『山ざる』53号
		定額貯金 800,000	通信・印刷費	141,194	総会・役員会案内等
		振替貯金	総会費	0	総会関係支払
年会費	346,000	173名	会議費	63,811	役員会等
総会費	0	-	支払手数料		
会議費	59,500	17名	消耗・備品費	70,635	事務品・広告費・慶弔費
寄付金	214,652	63名	繰越金	1,746,746	郵便貯金 194,097
広告料	510,000	42件			定額貯金 800,000
冊子代	31,297				
その他	961	利子			振替貯金 752,649
合計	2,851,711		合計	2,851,711	

以上

監査の結果、上記のとおり相違ありません。

2023年7月9日

会計監査

山本喜則 

谷敬三 

祝寿の方々ご紹介

郷友会では毎年の総会で80歳を迎えられる会員の祝寿のお祝いをしていきます。今年、その対象者となられる46名に以下の項目でアンケートをお願いしたところ、13名の方々から回答をいただきました。

(誕生日順)

- ① 生年月日
- ② ご出身地
- ③ 上京の年月日
- ④ 上京の動機
- ⑤ これまでに最も印象に残ることは
- ⑥ 祝寿を迎えてひと言

対象年（昭和18年・癸未・1943年）昭和19年・甲申1944年・3月）とはどんな年？
第二次世界大戦中。連合艦隊司令長官山本五十六戦死。アッツ島の日本守備隊玉砕。同盟国イタリヤ軍、英米連合軍に無条件降伏。神宮外苑競技場で出陣学

徒の壮行会。陸軍省「撃ちてしまむ」のポスターを5万枚配布。ジャズやブルースを歌うことや演奏することがすべて禁止、英米語の雑誌名禁止。野球用語の日本語化が決定。東京・昭和通りの植樹帯が菜園に。神奈川県各ゴルフ場農園に変わる。玄米食普及の政策方針。文部省学童の縁故疎開を促進。映画は「姿三四郎」「無法松の一生」「決戦の夜空へ」「愛機南へ飛ぶ」「花咲く港」。長編漫画映画として「桃太郎の海鷲」。流行歌は、「勘太郎月夜唄」「若鷲の歌」「加藤

隼戦闘隊」「索敵行」。プロ野球は巨人が優勝。大相撲は一月場所、五月場所、ともに双葉山が全勝優勝。駅弁40銭（上弁当）、大学の授業料200円（年間）、時刻表32銭、タバコ（ゴールデンバット）15銭、入浴料8銭、ダイヤモンド（1カラット）二千円、お茶26銭（100グラム）、ビール1円30銭、理髪料80銭、清酒7円（1級）

井上 巖様

- ① 昭和18年4月9日
- ② 水上町
- ③ 昭和41年4月1日
- ④ 就職
- ⑤ 大きな感動と強烈な印象を受けた光景があります。姫路城

祝寿の方々ご紹介

から見た夕日です。時は1962年4月某日、生後19年を過ごした故郷丹波を離れて、神戸大学姫路分校の学生寮に入居した日です。山が近い丹波では決して見られない「地平線に沈む夕日」。大きくて燃えるような太陽に圧倒されて立ち尽くして見入っていました。人生の新たなスタート台に立った期待と不安で気持ちも高ぶっていたのだと思います。

⑥80才という年令に気持ちがあくついていけません。当面、年令のことはあまり考えないようにして、好奇心を失わずアクティブに暮らしていきたいと思っています。

村岡勝美様

- ①昭和18年5月24日
- ②山南町
- ③昭和49年
- ④転勤
- ⑤
- ⑥

石倉良介様



- ①昭和18年5月30日生
- ②柏原町
- ③大学卒業後機械系専門商社に就職、初赴任地名古屋（モーターリーゼーションの幕開け超繁忙）、社命

で金沢、小倉（製鉄・セメン

ト）、延岡（旭化成）に着任後昭和50年（1975年）に東京支社着任（現在東京本社）住所は千葉・習志野市、横浜市に移動、現在に至る。

④西日本を中心に顧客の開拓、新商品のPRを行いつつ、今でこそ、ふるさと納税品で全国各地の特産品を入手する事が出来ますが、あの頃は現地でしか味わえずカルチャーショックを覚えた次第です。みそ煮込みうどん、きしめん、博多ラーメン、明太子、ふぐ料理、佐賀牛、鰻等、名物料理に舌鼓し且つ大好きな各地のゴルフ場にもプレーする事が出来、小倉でホールインワンも記録する事が出来ました。しかしながら昭和60年（1985年）に胃癌の部分摘出、5年後全摘手術を受け、ゴルフも断念、神社、仏閣巡り等

祝寿の方々ご紹介

に特化、薬と先生と共に共生しながら体力を維持している次第です。

⑤ベストセラー本の「八十才の壁」に到達、昨今人生百年時代と云われて久しい。無理をせず自分に合うルーティンを守り、子供の成長を見守り、常に好奇心を持って地域の一員に溶け込む事を希望します。さらにコロナ禍による数年の中断はありましたが年に数回同期のクスノキ会で皆様の笑顔に会うのを楽しみにしています。

⑥終活に向け準備中ですが、若かりし頃、食事、衣類等貧しいながら未来に向け輝いていました。昨今全世界に気候変動に見舞われ、史上初めての高温、洪水、火災に見舞われる事が多くなりました。日本でも少子化、人口減等が議論

され、国の活力が失いつつあります。更に近辺では有事の備えが現実化する様になってきました。次の世代の方々に明るい未来と希望の持てる社会になるべく政治の舵取りを願うばかりです。

広瀬靖典様(妻真澄様返信)

①昭和18年8月17日(平成26年12月死去)

②春日町松森34

③昭和36年頃

④高校卒業後佐伯栄養学校で栄養士の資格をとるため。

⑤生前は長い間にわたりお世話になりました。御連絡できず大変申しわけなく思っています。年末の集まりには何度か夫婦

で参加させていただき楽しいひとときをすごさせていただいたこと、なつかしく思い出しています。(私の出身は西脇市です)

⑥これからも関東水上郷友会のみならずの発展をお祈りしています。

三階洋子様

①昭和18年10月2日

②柏原町

③昭和40年12月

④父の仕事の都合。父は関東(神奈川県海老名市)の生まれで会社を定年まで勤めて、嘱託でいたのですが、幼なじみに会社を一緒にやってほしいとのまれて家族4人で大磯へ引っ越してきました。私は結

祝寿の方々ご紹介

婚して平塚に住んでいます。

⑤学友、お勤め、趣味、ボランテニア、沢山の友達との出会い、別れがありました。今想い出しても、嬉しく、楽しい懐かしい思いがけない事でした。友達と新大阪で待ち合わせしていました。名古屋駅に着くと間もなく、私の乗っている車両の前から照れくさそうに笑顔で私の方へ向かって歩いてくるじゃないですか？私ほええ！夢いや現実、びっくりしました。私を驚かせよう……思いがけないサプライズでした。早く会いたかったからと幸せな気持ちになりました。

⑥信じられません。いつの間にかという気持ちです。今日までお蔭様で元気に過ごす事が出来て。丈夫な身体で、この世に両親に本当に感謝しています

残された日々、後悔の無い毎日でありたいと願っています。

大畑時子様

①昭和18年11月28日

②水上町沼

③昭和45年1月31日

④結婚を機に

⑤夫の転勤に伴い色々な土地に住みました。どこの土地でも友人が出来て沢山の想い出を作りました。今は小さな庭で野菜や花を育ててのんびりと生活を楽しんでいます。

⑥私達は平和で幸せな時代を生きていると思います。この幸せな生活が今後もあたり前に末長く若い皆さんにも続くようにと願っています。

田中一美様



①昭和18年12月15日

②山南町谷川

③昭和47年4月

④夫の転勤

⑤一つには絞られませんが、まず一つは子どもの誕生、あの感動は何にも代えがたいものでした。二つめは、元気な間にと、夫の退職前後に海外旅行に行ったこと。タイ、シンガポール、パリ、イタリヤ、スペイン、ポルトガル、カナダ、オーストリア、チェコ、スロバキア、ハンガリー、オランダ、ベルギー等々、各地での体験が折にふれ思い出されます。三つめは、主婦になつて住まいからひと駅のとこ

祝寿の方々ご紹介

ろにあった玉川大学に通大生として学んだことです。スクーリングの授業を担当していただいた先生方の熱意が生半可ではなく、教育哲学、西洋哲学、中国や日本の思想史等々を学ぶことを通して、私自身の生きる支柱が与えられたと思います。

⑥ 人生の折り返し点を過ぎたかと思つたのが遠い昔ではないのに、祝寿の一人として紹介されると知ってビックリです。自分の年令を知らないわけではないのですが、実感が伴いません。とは言え、疲れることが多く、やはり歳ではあるのです。社会に貢献出来ることは少なくなり、せめて社会や子たちの負担にならないよう心掛けたいと思っています。夫とは二人で一人前で生き抜こうと言ひ合っております。

会いたい人には会い、行きたいところには行き、私で役に立つことがあれば心から受け入れ、豊かな老後をと願っています。

足立悦夫様

① 1944年1月16日

② 青垣町大名草

③ 2011年2月26日

④ 妻の死去により一人暮らしをしていたが、持病あり（心筋梗塞、糖尿病、高血圧等々）千葉在住の娘が心配したため、娘の近くに引越した。
⑤ 個人的には結婚と子供と孫の誕生、そして早かった妻の死。ビジネスではバブルとその崩壊の社会現象を金融機関を通して経験したこと、又銀行強

盗に遭遇したこと。社会的には阪神淡路大震災と東日本大震災との遭遇。また多くの色々な分野の人たちとの出会いとその人たちへの感謝。
⑥ 幼少時の虚弱体質では考えられない傘寿までの人生。諸行無常の世界、今を生かされていることに感謝するとともに、残りわずかな命を有意義に使いたい。

足立義雄様

① 昭和19年1月26日

② 氷上町清住（旧葛野村下村）

③ 昭和37年7月

④ 東京支店転勤辞令

⑤ 高校卒業後すぐに大阪道修町の製薬会社に就職。3か月間新人社員研修を受け、7月に

祝寿の方々ご紹介

東京支店勤務の辞令が出てシヨックを受け、さてどうしようかなと迷っていました所、親父から「男子たる者、東京くらいで、臆するな、日本の首都で頑張つてきなさい」との一言で、意を決して上京致しました。丹波のやまざるがこれを機に全国に活躍できる機会に恵まれることになり現在があるのは親父のお陰と感謝しております。最初に就職致しました会社は6年間勤務し退職しました。色々と営業のノウハウを教わりました。感謝ばかりです。退職した理由は、前職で川崎市を担当していました、ある製薬メーカーさまより現在販売している商品（医薬品のハンドクリーム）を全国商品に育てたいので、足立さんの力をお借りしたいとお誘いを受け私自身

もチャレンジしようと思

たわけです。（昭和43年転職）

昭和45年大阪万博景気から昭和48年オイルシヨック景気を

得て、商品を新しくモデルチェンジをして、昭和50年代バ

ブル景気に乗り全国北は北海道から南は沖縄まで、代理店

開発に奔走いたしました。素晴らしい上司にも恵まれお陰

様でハンドクリームのトップ商品になれました。今後余生

を全国でお世話になった地域を巡り歩きたいと思つていま

す。

⑥いくつ年を取っても常に前を見て後ろを振り向かない。

②市島町中竹田

③1966年6月

④転勤のため

⑤24歳から5年間のロサンゼルス駐在。古き良き時代のアメリカでの生活を経験し、当時

築いた人脈のお陰で、現役を退くまで継続した仕事が出来たこと。

⑥つい最近、日本棋院より囲碁六段の認定を受けました。歯

は健康のパロメーターと言いますが、幸いまだ一本も欠けないので、引き続きメンテナンスに留意して、体力、気力、知力を維持出来ればと願つております。

山本喜則様

①昭和19年2月2日

祝寿の方々ご紹介

森田栄子様

- ① 1944年2月4日
- ② 柏原町
- ③ 1992年
- ④ 夫の転勤
- ⑤ とても印象に残っているのは話し言葉の違いです。私は夫の転勤で西宮・福岡・京都・宝塚・広島・東京・千葉と色々な所で暮らしてきました。日本国内なら日本語で話せばどこでも通じるものと思っていました。が地方によって話し言葉に違いがあり広島から東京に引越して近くに買い物に行った時に「言葉が分からない」と言われた時と、お医者さんが「しんどい」の意味が全く分からなかった時には驚きました。分からないとは言

われないまでも、げげんな顔をされる事がよくありました。日がたつにつれ、そのような事は無くなり今では丹波に帰った時に初めて話した人には「こつちの人ではないね」と言われ、関東出身の人には「関東の方ですね。懐かしい」と言われます。京都の優しい言葉から男性的な九州弁を初めて聞いた時には怒られていたような感じがしました。広島弁の抑揚にも違和感を感じましたが今はテレビで博多弁や広島弁を聞くと懐かしくほっこりします。特に意識して住んでいる所の言葉を話している訳ではないのですが自然に馴染んでいくようです。

⑥ 一にも健康、二にも健康。食事・運動・睡眠・人との交流を大切にしつつ、小さな新しい事にも挑戦していければと

思います。

岡田昌子様

- ① 1944年2月19日
- ② 柏原町本町
- ③ 1966年4月
- ④ 就職のため
- ⑤ 昨年半年間の修繕工事でマンションに。ポーチ・坪庭・ベランダ全ての植木鉢等に撤去命令見事に成長した河津桜や椰子の木は家族旅行で苗を購入したり八丈島で拾った実。花海棠・南天とともに泣く泣く処分。他鉢はエントランスの薄暗い日陰に追いやられ2月戻れば全てが瀕死状態。コンクリート片の雨にやられた葉は白く萎れコンクリート片が土

祝寿の方々ご紹介

上田道代様

に積もる。母方祖父から父へ父から私へと3世代1世紀余に亘って毎年可愛い花を咲かせた石斛や赤い実をつけた万年青は見るも無残で泣けてきた。鉢の半分は諦め、残りは

傷んだ葉を取り土を入れ替え肥を与え変わり果てた姿に、それでも水やりしながら見守った。何と何と、春めいて来た

たら日毎に僅かな芽から葉を出し始めた。蘭は2〜3個の花をつけ、重過ぎて処分に困った塊からは可愛い椰子の葉が威勢よく出始めた。自分の姿の相似形に思えたシヨックは畏敬の念に変わりその生命力に正に生きるエネルギーをもらえた。仏様が宿っているように命の残り火を少し余分に貰えたように思える。

⑥ 家族や親族、関係する方々へ感謝・感謝・感謝あるのみ!

① 1944年2月25日(伊丹市生まれ)

② 柏原高校在学時は、氷上町横田及び領町に居住

③ 1962年4月

④ 女子美術大学短期大学部絵画科に入学(教室だったかも)

⑤ 四角いおもちと白いネギ!!。子供の頃から引越しに慣れていた

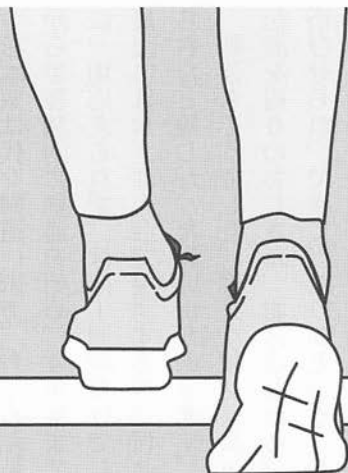
ので、環境が変わることには、抵抗はなかったし、言葉も東京に行く決めて、秘かにシユミレーションしていたので、すぐになじめた。けれど、学校を出て自炊を始めた時、四角いお餅を前にして「これは、おもちに似ているけど、いったい何だろう?」とまじめに悩んだ。それと、

関東のネギ!関西では九条ネギといわれる青いところを食べるのがネギ。関東のネギの青い部分は硬くてまずい。白い部分を食べるなんて夢にも思わなかった。当時、一万円台の薄給の身故、「貧乏人は、こんな硬いネギを食べないといけないのか!」と真剣に嘆いたものだ。今では笑い話だけれど所かわれば思わぬものにぶちあたる。

⑥ 正直まだ80才までに8ヶ月余りある。年寄りは何かとやっかいあつかいの世の中。ならば、80才を過ぎれば、自由に死ねる安楽死の権利を与えてほしいと思う。

特集

新たな挑戦



START

近況エッセイ

「丹波人」を誇りに続けるチャレンジ

杉本 秀和（千葉県印西市）

私は「丹波人」であることを誇りに思う。



黒井駅を降り、目に飛び込んでくる城山（保月城跡）を見ると都会で戦っている中で積み重なったプレッシャーや疲れから解放され、ありのままの自分に戻る。兵主神社や興禅寺では手を合わせながらこれまでの感謝を伝える。城山の山頂では戦国武将の赤井直正になったような視座で思考を巡らせ、次の戦略を考える。そして最後に、城山のふもとにあるお稲荷さんで決意表明をする。

少し情緒的な始まりになりましたが、東京大手町で日々奮闘する私の丹波への思いと帰省時のルーティーンです。

私は1986年に春日町黒井の杉本家9代目として生まれました。兄弟はおらず一人っ子です。

曾祖父は魚市場、酒屋を創業し、祖父は春日町長、父と叔父は兄弟連続で柏原高校の生徒会長（柏原高校27回・28回）をする等、幼少期から丹波中どこに行っても「顔バレ」している状態でした。小学生まではそれがプレッシャーに感じたことをおぼえています。

杉本家は代々剣道一家で、もちろん私も小学1年生から半強制的に剣道を始め、4年生までは周囲の期待に一切応えられず、ほぼ1回戦負けでした。それでも最後には氷上郡大会で優勝する等、何とか期待に応えられたと嬉しかった思い出があります。

勉強もそうでした、偉大な叔父（故・杉本啓助）の伝説を周りのおじさん、おばさんから、嫌というほど浴びせられ、できて当たり前というプレッシャーを常に感じていました。今から思えば、大体みんな当時のことを美化しているので、話半分に聞いておけば良かったと思います（笑）

こんな有難くも特殊な幼少期を過ごした私は両親の勧めもあり、中学生から福知山市の京都共栄学園へ進学します。杉本家で初めて柏原高校以外に進学するので、なぜ柏原高校へ行かなかったかを色々な人に説明

した記憶があります。そして、剣道も辞め、新たに野球やサッカーを始めました。当時は何も考えていなかったですが、中学生で部分的にでも丹波や杉本家の当たり前から離れ、少し客観的に自身を見ることができたと思います。ここまで考えた上で両親が勧められていたとしたら改めて感謝です。

その後、神戸大学へ進学し、アメリカンフットボール部に入り、関西一部リーグで強豪私立と戦うという挑戦的かつ刺激的な日々を過ごしました。

その中で、2回生時にレギュラーになった直後に足首を複雑骨折し、1年間のリハビリを強いられることになりました。ケガをしたプレーはたった5秒間で、絶頂から絶望へ転落。当時は人生の全てがアメフトでしたので、自己を表現する全ての機会を奪われたに等しく、辛く苦しい日々を過ごしました。

おそらく、文頭のルーティーンはこの時から生まれました。小学生の頃は試合に勝ちたいので、兵主神社等で手を合わせ、「お願い」をしていました。大学生になり、ケガをしてからは、自身を表現する全ての機会を失われた私をこれまでと何ら変わらず温かく受け

入れてくれる丹波に「感謝」の気持ちが生えてきました。

その後、ケガも癒え、3回生でまたレギュラーに復帰でき、アメフトという競技を全うできたことは私の中で大きな財産になりました。強烈な痛みや辛さを経験し、少し大人になったように思います。

大学を卒業した私は新卒で2010年に三井住友銀行に入行します。就活時はちょうどリーマンショックが起きていたようですが、アメフトしかしていなかったのが気づいていませんでした。

配属は中小企業のメツカと呼ばれる東大阪市で世界有数の技術持つ企業等を担当し、強烈かつ愛ある経営者の方々と対峙し、育てて頂きました。どうしても社長に会いたくて真夏の駐車場で2時間待ち伏せしたこともありますし、自身の怠慢で迷惑をおかけしたこともあります。社会人の始まりが東大阪で本当に良かったと感謝しています。

2014年には当時では珍しかった自ら手を挙げて異動先を希望する「公募」という制度を使つて、小売流通業界を担当する業界担当の部署に異動します。家

業が酒屋という小売業であったことや、小売業であれば店舗がどこでもあり、休日でも見学に行けるので、他の業種と比べ先輩との経験値の差を埋めやすいと思いい、希望しました。

ここでは全国の都道府県のほぼ全てに伺い、地場の大手小売企業のお客様と多くの面談を重ねてきました。その中でお客様から地域の雄としての矜持を伺ったり、地域毎の特性を体感したりと20代中盤後半で非常に貴重な経験を積ませて頂きました。

その後は、半沢直樹に出てくるような本店営業部で大企業のお客様を担当したり、外部の大手小売企業の社長室へ出向したりする等、これまた貴重な機会を頂いています。

これらの人生経験の中で、何度も壁にぶち当たり、何度も挫折を経験しましたが、周囲に支えられ、乗り越えてきました。一方、その過程の中で、自らを表現する機会を失い、自らの人生を他者の意思決定や前例に委ねてしまっている時もありました。

振り返りみると、自らの意思で何かにチャレンジしている時が最も充実し、生きている実感を得ていたよ



丹波在住者とのオンライン会議では
ファシリテーターも

金融以外の新たなビジネスを開発できたりするのかが等を纏め、経営への提言を始めました。現在、その中から前例にとらわれない新たなビジネスや取組みが生まれてきています。

また、他業界の同世代とも交流を深め、今では我々世代が各業界を変革し、どのように日本の「失われた30年」を止め、反転させるかについて、日々議論やチャレンジをしています。

ふるさとの丹波に対しても何かをしたいとの思いが強くなり、オンラインで丹波の方々と交流したり、丹波に興味のある方々と繋がり、丹波の魅力を議論したりと、私自身が丹波にルーツを持つ「関係人口」とし

うに思います。

そう気づいた5年前、私は新たなチャレンジを始めました。

まずは銀行内の同世代（20〜40代）で有志のチームを作り、どうすれば銀行ビジネスがより良くなったり、銀行が

て、新たな「関係人口」を増やすような活動をしています。

こうして、前例にとらわれず、自らの意思で発信や行動する仲間を増やし続け、丹波、日本、世界をより良くしていくことが、現在の私の志です。

さて、最後のまとめに入りますが、この文章を書きながら、自身の丹波でのルーティーンは自身を客観視し、周囲に感謝した上での、「意思決定」のルーティーンだったのだと気づきました。この文章を書いているのは7月末ですが、次のお盆には丹波に帰省し、新たな意思決定をしてこようと思います。

私は「丹波人」であることを誇りに思います。丹波の全てに感謝しています。これからも丹波が素敵なふるさとであることを願いますし、そうであり続けるように私自身も様々挑戦していきます。

（春日町出身、1986年生まれ、京都共栄学園、神戸大学を経て、2010年三井住友銀行へ入行。法人営業に従事し、21年からファーストリテイリング（ユニクロ）の社長室へ外部出向。23年2月に同行デジタル戦略部に帰任し、現在は銀行内で新たな会社を設立する社内起業に挑戦中。）

通訳案内士デビュー

石橋 順子（町田市）



2003年、今から20年前インバウンド（訪日外国人旅行者）の数は520万人だった。2012年、時の内閣は経済政策の一環として観光

立国を推進することにし、ビザの緩和や免税店・免税品の拡大、国内のWiFi整備や公的施設の公開・開放などを実施した。このような戦略の下、2013年のインバウンドは初めて1千万人の大台に乗り。2016年には2千万人を超え2019年には3千万人と鰻上りに増えていった。（因みにパリは2019年5千万人）政府は2020年には4千万人、2030年には6千万人という目標を立てた。2015年の流行語大賞は「爆買い」。2019年にはインバウンドの国内消費額は4・8兆円という巨大な市場になった。しかし予想だにできなかった2020年からのコロナ

のパンデミックでその目標はあえなく潰れた。インバウンド数は前年比87%減に落ち込み、政府は国内の観光需要の促進として、「Go toトラベル」キャンペーンを始めた。コロナ禍は奇しくも観光立国構想の危うさを露呈することになったのである。一方、観光庁によれば「コロナ終息後に観光したい国」の1位はアジア諸国居住者間では日本であり、欧米人を含めるとアメリカに次いで日本が2位ということである。

「全国通訳案内士」に挑戦

こういった社会背景の中で、私が挑戦したのは「全国通訳案内士」。高校の教師を30年近く続けてきたので別の風景も見なかったこともあるが、コロナ禍のリモートワークと英検1級の合格が契機となった。合格の勢いと時間的な余裕が「全国通訳案内士」への受験へと繋がった。こちらの受験科目は一次が「英語、日本史、日本地理、一般常識、通訳実務」と盛りだくさん。いざ勉強を始めてみると、これが非常に面白い。特に日本史を読み込んでいくのが興味深く、中学、高校で習った記憶を思い出しながら楽しめた。一方コロ



ナはますます勢いを増し、二次試験は透明マスクをつけての英語面接となった。なんとか無事に合格したが、通訳案内士になるにはさらに研修が必要ということで、座学並びに日光、富士・箱根バスツアーと数日間にわたる研修が控えていた。

コロナ禍を避け1年後、丁度春休みを利用して日光・富士・箱根ツアー研修を受け、その後も研修仲間とZOOMを使った研修や都内の大名庭園巡りなどをし、また政府公認の会社主催の、盆栽、お能、両国の大相撲などについて実地で説明を受けたり体験したりし、知っているようで知らない日本の歴史、文化を深める機会を持った。実際、それぞれの文化を調べる程に、日本人の感性や宗教観などが浮き彫りになってくる。研修三昧で1年が過ぎ、やはりここまで来たら実践し

たくなり思い切つてある通訳案内会社の面接を受けることにした。

通訳案内デビュー

その会社はF I T（海外個人旅行）専門でゲストは家族が多く、「一日東京観光」を目玉にしている。デビュー戦はオーストラリアからのご夫婦を案内するというもの。当日は生憎の雨で傘を差してまずは明治神宮からガイドスタート。時間をかけ調べ上げた案内内容を頭に叩き込み説明していくが、耳を傾けながらもご主人はパチパチ写真を撮っておられる。やはり文化が違うと何でも珍しいのだなあと、改めて感心し感謝の念まで湧いてくる。

鳥居の意義や明治天皇について語り、明治を語るには江戸時代についても語らねばならないが、すぐに手水舎で清めの作法、賽銭、参拝の仕方、おみくじ、絵馬などの説明に進む。ここで思わぬ事故が。2、3段の階段を上がり門扉の「猪の目」の説明をしようとしたところ、後ろでドサツという鈍い音が。振り向くと奥さんが階段で転倒、ビニール傘もぐにやりと曲がり

悲惨な状況が目に入る。白い御影石の階段が雨で滑りやすくなっていったのだ。もっと早くに注意を促してあげればと猛省したが幸い奥さんも傘も無事で案内続行に。

次は東京タワー。展望デッキから300m超の「麻布台ヒルズ森JPタワー」などを間近に、さらに東京の街を360度見渡す。ここでアイスクリーム休憩。次は築地でランチ。奥さんが生魚がダメでフードコートに行く。食後は皇居の東御苑に移動。ここは江戸城や大奥などもあった江戸幕府の中樞だった所。しかし天守閣は1657年「明暦の大火」で焼失、以後再建されず本丸もまた江戸末期に焼失し今は草むら。まさに「兵どもが夢の跡」だ。後は浅草を残すのみ。浅草に着くと雰囲気グッと陽気になる。浅草寺までの「仲見世通り」は人が溢れ行き交う人たちも楽しそう。ご夫婦とも「雷門」が気に入った様子。現在の門は1960年に再建されたものなのだが。

2組目はスイスからの夫婦で10か月の赤ん坊連れ。10か月と言えばまだミルクを飲むし離乳食も食べ始める頃。きつと乳母車も持って来られるだろう。そこで。

エレベーターの位置、おむつ替えのできるトイレ、授乳室のある所の確認のため下見に行く。これらは予想以上に整備されていた。

さて思った通り若い夫婦は抱っこ紐と乳母車持参だったが、屈強のご主人が赤ん坊ごと乳母車を持ち上げ階段を上り降りしてくれることもしばしば。赤ん坊はよく飲みよく食べよく寝てご機嫌で、通りがかりの人にも可愛がられていた。そして3組目。今度はアメリカからの夫婦二人。ところが待合場所に時間が来ても現れない。会社に問い合わせると、予定の飛行機に乗り損ねたそうで、1時間待って現れなかったら「ノーショー (no-show)」にします、ということだった。こういうロスもしばしば起こり得るという。

これまでの結論として、日本にいながらにして世界中の人と話ができ、その国の事情も知ることができ。スイスの夫婦は「赤ん坊のインプットは妻の仕事、アウトプットは夫の仕事」と言ってお主人が赤ん坊を抱っこしておむつ替えに男性トイレに入って行かれた。子育ての分業ができています。また日本の文化、歴史に



7月27日のツアー

興味を持つてくれるのは嬉しいことだ。それにしても東京は災害と復興をどれだけ繰り返し続けてきたことか。「江戸の華」と言われた火事の多さ、地震、そして空襲、これでもかと言わんばかりに何度も灰燼に帰した東京の街。それでも人々が街を復興させてきたことに感動するところに、過去の歴史が消えることに歯がゆさも覚えた。こういった経験を高校の授業にもうまく還元でき、生徒たちにも上手く伝えられるように、しばらくは二刀流でやっていければと思っている。

(高校英語講師、全国通訳案内士 市島町 柏原高校S
43年卒)

生涯大学2年生

岡田昌子(世田谷区)



喜寿を過ぎた頃から心身の動きがおかしい。油切れしたようなエネルギーの枯渇は何をするにも億劫で面倒臭い。テレビ観賞も一番の山場でウトウト。集中力・緊張感のなさに恐怖。ポックリ逝くのが理想だが先が見通せないのが困りもの。趣味なし人間の怠け者に向いているものは? 「そうだ! 一人暮らししていた母がOB大学に通っていた。楽しかったに違いない!」母を真似ることにした。

区が主催する生涯大学は週1回の2年制。当然入学試験はなく60歳以上が学べる。昨年4月に入学して今年で2年目。「社会と文化」コースを選択し、火曜日の午後からバスと歩きで約30分世田谷公園近くのがやがや館へ通い始めた。区長の挨拶付き入学式に始まり、HR、授業、体育の他、学園祭まである。クラスは63



吉原弁財天（撮影：永野尚）

歳から83歳までの12人。来年は卒業年で46期生アルバム用にレポートの提出があり目下劣る脳に叱咤激励中。レポートは授業の一環としての「街歩き」に題材を取り、吉原界隈を廻った時のシヨックと怒りを纏めてみた。以下は「山ざる」用に纏めてみたものである。

「街歩き」は都電荒川線鬼子母神駅から出発し、上野、谷中、浅草、吉原、秋葉原、新宿界隈を廻り、江戸期から現在の東京へと変遷した街の歴史を学んだ。当然のことながら功績を残した男たちの道のりで、神社仏閣、住居、住居跡、碑や墓石等に祀られて、盛り場も男性中心に成立していた。女性の功績は樋口一葉旧宅跡と藤圭子の歌詞碑のみ。ただ、吉原神社・吉原弁財天・浄閑寺、成覚寺には供養碑や観音像が狭い敷地内に混然と残されている。それは何百、何千という

名もなき遊女や飯盛女たちが一緒にされた合同供養碑だった。この余りにも大きな性差はどこから来るのかといつもの被害

感が頭をもたげ、性差の由来を調べてみたくなった。

奈良から平安期における遊女の仕事は神仏一致の遊芸が中心で巫女として歌や踊りを披露しながら諸国を漂泊し、一方では性を売るようになる。江戸期には人身売買的要素が温存され、江戸幕府は1612年日本橋人形町に公認の吉原遊郭を設置。その後、1946年にGHQの指令により遊郭は廃止され赤線に変わるも1958年売春防止法により消滅した。が、一部はソープランドとして残りその界限には紹介場所としての喫茶店が今も点在する。

遊郭・花魁・遊女の華やかなイメージは男性天国の象徴であるが、対応する遊女や飯盛り女たちの人生は凄惨を極めた。その状況は映画「吉原炎上」（監督五社英雄・主演名取裕子）等に詳しいが彼女たちは年季奉公として働かされ年季明け率は8割その他は性病などの感染症に罹患したり栄養失調や不衛生な集団生活などで健康状態が悪くなり商品価値がないと見なされると解雇や放逐により年季明けにされた。また、江戸の遊女たちは度重なる大火や震災時には逃げ出せず弁天池で猛火の中溺死したり、心中や脱走・窃盗・密通



浄閑寺（投げ込み寺）新吉原総霊塔（撮影：永野尚）

が残る。

身を売られ、商品や道具として扱われる屈辱に内包する辛さ悲しさ怒り恨み無力さ無念さ等は如何様であったか。また、江戸期の儒学者貝原益軒著和俗童子訓巻5「女子二教エル法」19か条には「女性を幸せに導く」と説くが、全ての女性に教え導くという名のもとに抑圧された時代背景が色濃く窺われる。

以上のように女性への人権侵害は女性の心身を犠牲にして成り立つことから始まり戦争時の慰安婦問題へ

などで掟を破れば裸にされ荒蕪に包まれ「投げ込み寺」浄閑寺等に捨てられた。「人間として祀ると後に崇るので犬猫同然に扱い畜生道に落とす」との考えによるという。

悲惨な新聞記事も展示され、川柳作家花又花酔の「生まれては苦界 死しては浄閑寺」の有名な句

と続いて行くのであるが、明治末期には与謝野晶子が『青鞥』創刊号（1911年）に「山の動く日来る」と宣言し、平塚らいてうは「元始、女性は実に太陽であった。真正の人であった。今女性は月である。他に依って生き、他の光によつて輝く病人のような蒼白い顔の月である。私共は隠されて仕舞った我が太陽を今や取り戻さねばならぬ。」と声明文で宣言した。

にも拘らず、封建時代の家父長制は人々の脳裏に固定観念として頑固に刷り込まれ、常識・良識・道徳観・価値観となり、何の疑問を持つことなく自縛するのが女性の品格とされた。女らしくと育てられ嫁いだ家では夫の姓を名乗り主人と崇め舅姑に尽し良妻賢母として家事育児に励み子なきは去れと追い出され老いては子に従えと実権はなく舅姑両親夫を介護して見送る。女性の精神性は蔑ろにされ身体性は「産む性」と「道具・商品」に分断、妻妾同居・浮気は男の甲斐性・妻は二夫にまみえず・家内・女房・内のもの・お母さん・おい・おーい・ちよっと、後家、行かず後家等と呼ばれ、就労後も当然家事育児介護は妻の役割。職場では有能であっても男女格差・低賃金労働に「だから

女は「女のくせに」と言われ放題。犠牲的精神を余儀なくされて愚痴もこぼさず何重苦をも背負う日本女性は今も五十歩百歩。男女ともに刷り込まれた思考回路はそう簡単に削除できない。

昨今「山の動く日来る」傾向がやつと見え始めた。政治家等による数多の失言やセクハラ・パワハラ等の失態やジェンダーギャップ指数のお陰か。今年は146ヶ国中125位、主要先進国で最下位。政治・経済の男女差が大き過ぎる。女性への抑圧から成り立つ歴史なら当然の帰結であるが女性の地位向上をただ叫ぶのではなく「要職者に半数は女性起用を・男性中心長時間労働や雇用差別の撤廃・家事育児介護役割は皆で分担」等具体的な大変革を願いたい。などと記した。性差のない社会は人々皆が協力し合つてともにより良く生きていけそうな気がする。

(柏原町出身)

古典の読書

田中正邦(渋谷区在住)



長い間、西欧の文化特にフランス文学・思想にどっぷりと浸かってきたのだが、ここに来て日本の古典に関心が移ってしまった。そのきっかけとなったのが三島由紀夫である。ずいぶん以前から春休み、夏休みになると、ある作家の全作品を集中的に読むことにしていた。夏目漱石、芥川龍之介、谷崎潤一郎、川端康成等を経て三島由紀夫にたどり着いた。高校時代に下手な読書感想文を書いた『金閣寺』から『豊穡の海』まで新潮文庫36冊、Yonda? CLUBの景品ゲットも兼ねて必死に読んだ。その結果、彼の愛して止まなかった能楽に親しむようになったし、『豊饒の海』第二部「奔馬」の舞台になっている奈良の三輪山にも登拝した。そして何よりもまず『日本文学小史』によって日本の古典に目を見開かされた。古

事記、古今和歌集、源氏物語。明晰な言語であると言われているフランス語よりも、優雅な大和言葉に触れていたいと思うようになった。三島由紀夫が、自然を素直に詠む京極派の永福門院の和歌に認めた「日本語のすがたの美しさ」を追い求めたくなった。

山もとの鳥の声より明けそめて花もむらむら色ぞみえゆく

(山のふもとの鳥がさえずり出し、夜が明け始め、そこかしこに咲く桜の花の色も見えてくる。)

確かに古文は難しい。補助的にマンガや現代語訳に目を通していい。しかしそれだけでは、いにしえの言葉の美しさを永久に知ることとはできないだろう。古文に直接触れることによって得られるものは貴重である。「本歌取り」、「引き歌」、「掛詞」といった古文独特の優美な技法に対する理解も必要である。

古典に折々触れていると、郷土の丹波・氷上に関する記述を目にして嬉しく思うことがある。その中で最も有名なものが「おさん・茂兵衛の事件」に題材を得て

いる近松門左衛門の浄瑠璃『大経師昔暦』(だいきょうじむかしごよみ)(1715年初演)(下巻奥丹波柏原借家の場)であろう。旧暦の正月頃の柏原のあたりの情景が見事に描き出されている。

春立つと去年の雪消をそのままに霞むも山の奥丹波

軒の水柱も解けわたり谷の水音しつたんしつたん

(立春になっても去年の残雪はそのままの、霞がかつている山奥の奥丹波では、軒のつららも溶けてしまいい、谷川の水音がしつたんしつたんと聞こえてくる。)

さらに古くは、藤原明衡の『新猿楽記』(1052年?)に氷上という地名が出てくる。猿楽(さるがく)は当時流行していた芸能で今日の能・狂言の原型と考えられている。氷上には、もうすでに「瞬間芸」のプロがいたらしい。

氷上専當ガ取袴 (ヒガミゼンドウガトリハカマ)

(氷上の寺社の役人が袴を持ち上げて太股をあらわ

にしている。)

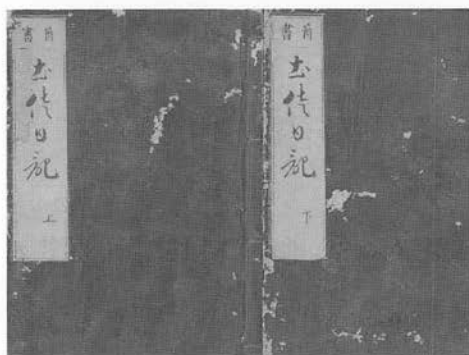
その他、近衛天皇即位の大嘗祭(だいじょうさい)(1142年)において奏上された「中臣壽詞」(なかとみのよごと)に、氷上が斎田(稲を收穫する田)に選出されたとの記述がある。「中臣壽詞」については本居宣長が『玉勝間』(1795年)の冒頭で注釈している。当時の氷上の人たちにとってはこの上ない名誉なことであったと思われる。

主基仁丹波國氷上遠齋定弓 (スキニタニハノクニヒカミヲイハヒサダメテ)

一口に古文とは言っても、今日、教科書や書籍で目にするものは、読みやすくしてあることに注意すべきであろう。原文(写本)の『源氏物語』には句読点は存在しないし、変体仮名も多用されている。従って、古典の読書の究極の目標は本来の原文を読むということになる。その原文へのアプローチの仕方には二通りあって、底本を複製した「影印本」に頼るか、江戸時

代に発達した「木版本」に頼るかである。

ということ、ここ数年の古典の読書と平行して熱を入れてるのが江戸時代に出版された木版本いわゆる和本の収集である。和本は以前、神田神保町界隈の古書専門店で主に扱われていたが、最近ではネットオークションが便利になってきている。和本を愛する者としては嬉しくもあり悲しくもあるのだが、昨今の和本の価格は恐ろしいほどの安さである。物の価値と価格が全く釣り合っていない。例えば万治3年(1660年)出版の『土佐日記』は4300円といった具合だ。今から360年ほど前の和本だが状態はかなり良好である。若干の虫食いはあっても読むには差し支えない。とは言え、まだまだ影印本あるいは和本で古典を読



宝永4年(1707)出版の首書土佐日記

60年)出版の『土佐日記』は4300円といった具合だ。今から360年ほど前の和本だが状態はかなり良好である。若干の虫食いはあっても読むには差し支えない。とは言え、まだまだ影印本あるいは和本で古典を読

みこなせるわけでもなく、今の段階では「読めればいいなあ」といった淡い願望に過ぎない。

もう一度繰り返すが、古文は難しい。解らないことも多い。本文校訂、語釈、文法、作品解釈、作品成立論。定説が覆されることもある。稗田阿礼は女性ではないのか？（古事記）、男も書く日記を女も書くのか？（土佐日記）、伊勢物語に紀貫之は関わっていないのか？（伊勢物語）、桐壺が執筆された時期は？（源氏物語）念仏を二三遍唱えた先にあるものは？（方丈記）等。今後、もう少しじっくり読み込もうと思う。残された時間を大切にしながら…。

（昭和28年生・柏原高校昭和47年卒・氷上町出身）



撮影・岡 吉明



「春日局」に導かれ 東京出店 丹波と東京を 繋いでいきたい



株式会社やながわ代表取締役

柳川拓三さん

●インタビューー 上高子、安井孝之

「プロフィール」 1954年丹波市春日町生まれ。柏原高校から松山商科大学（現松山大学）に入り、卒業後、静岡県でお茶の生産・加工業者で修業し、当時、お茶の加工・卸業を営んでいた「やながわ製茶」で働く。93年10月に株式会社を法人化し、社名を「やながわ」に改名し、代表取締役に。2005年「夢の里やながわ直営店」・「夢の里やながわ福知山店」、09年「夢の里やながわ阪神店」などを開店。18年3月に「TAMBA FUDO阪神店」を閉店し、同9月に「TAMBA FUDO東京春日店」を開店。前丹波市観光協会会長。

——コロナ前の2018年9月に東京都文京区春日に「TAMBA FUDO東京春日店」をオープンされました。丹波のお菓子屋さんで東京出店とは驚きでしたが、その後はいかがでしょうか。

柳川 東京・春日の地元の方との交流も少しずつ増えています。昨年10月15日に春日局の菩提寺である麟祥院で春日忌が開かれ、その物産展に出品し、丹波名産品を東京の方に楽しんでもらいました。今年も春日忌が開かれますが、麟祥院近くの湯島商店街でも「丹波フェア」を開こうと話しているところです。東京出店を機に民間レベルで、少しずつ連携が広がっています。また5月には東京春日店が兵庫県と民間事業者が協力して、首都圏でPRする「公民連携型アンテナショップ」に認証され、兵庫県とも連携し、丹波物産品などの情報提供を努めています。

——文京区春日に住む知人が、やながわさんのお菓子を手土産に持って行くようになった、と話していました。春日に住む人にとっては「春日局」にちなんだ商品は地元の名産品という受け止めなのでしょうね。

柳川 ありがたい話です。やながわの経営理念は「丹

波伝心」です。丹波の味と心を全国に伝えたいという意味の造語です。東京の人たちにも徐々に伝わって行ってほしいですね。

——東京・春日への出店のきっかけは何ですか。2009年に大阪・梅田の阪神百貨店にお店を出されていますが、東京出店は大きな決断だったと思います。

「縁尋機妙」の麟祥院住職との出会い

柳川 阪神梅田店は18年3月に営業を終了しましたが、その出店で、学びもあり、ブランド価値も上がりました。しかし2010年代半ばになるともう百貨店の時代ではないなあ、という思いもありました。しかも百貨店は多くの店の集合体です。それぞれのお店はワン・オブ・ゼムです。「夢の里」や「丹波風土」、「丹波伝心」といった私たちの思いを伝えるのは無理がありました。一つのトータルコンセプトの中でお店を展開していくのが、私たちの思いを消費者にお伝えしやすい方法だと考え、東京などの都会にお店を持ちたい、と思い始めたのです。

——なぜ春日なのですか？



東京春日店のスタッフと

お墓参りをして、帰ろうとしたらばったり住職の矢野宗欽さんにお会いしました。その時はご挨拶しただけですが、矢野住職は前年11月に春日町にお越しになり、道の駅で弊社の「お福豆 しぼり」（お福は春日局の幼名）をお買い上げになったようです。その10月に春日忌を約100年ぶりに再開されたので、春日局の生誕の地を初めてご訪問されていたのです。

「縁尋機妙」という言葉があります。「人は会うべき人には必ず会う。しかも一瞬たりとも早くもなく、遅く

もなく」という意味ですが、奇跡のような出会いでした。それがきっかけで翌年18年に开店したのです。

お茶で学んだ「風土」の大切さ

——大学卒業後、柳川さんはお茶の専門家、茶匠の修業をされたのですね。

柳川 私が大学を出た時は、実家はお茶の加工・卸業を営んでいました。まずはお茶の勉強をするために静岡に行きました。そこでお茶の基本を学びました。

——丹波もお茶の産地だったのですか。

柳川 かつては丹波もお茶の産地でした。福知山や綾部は玉露の産地としては九州の八女茶に次ぐ産地だった



店頭には春日局をアピールした商品が並ぶ

た時もあります。その後は九州などから原茶を取り寄せて、丹波で加工して丹波茶、国産茶として売られるようになっていきます。これまでの仕事を振り返ると、仕事をお茶から始めたことがとても良かった

と思います。

——どういうことでしょうか。

柳川 日本にはそれぞれの地域の自然との共生の文化があります。お茶もその通りで、全国にいろいろなお茶の産地があり、産地ごとに風土に合わせた加工方法があります。新茶を土蔵に入れて寝かすことによつて熟成させて、深みのある味を味わうという知恵もありました。素材からより良い香り、味、色を引っ張り出して、美味しいお茶を提供できるかが茶匠の腕の見せ所です。丹波の風土で育まれた素材を生かした美味しい産物を提供するという「やながわ」の思いの原点はお茶の修業で学んだものです。

「ホロンピア88」を契機に黒豆の加工食品を

——事業の原点の「お茶」からどのように和菓子、洋菓子など加工品の生産・販売へと進んだのですか。

柳川 1988年に三田市を中心に丹波でも開かれた「ホロンピア88」（21世紀公園都市博覧会）が大きなきっかけでした。丹波のお茶だけではなく丹波の代表的な物産品も出そうと思いました。そこで丹波黒大豆の

加工品「煮豆」や「しぼり豆」を出したら、非常に評判が良かった。それがお茶から丹波の知名度のある産物を扱い始めた最初でした。

ホロンピアの開催と同時に舞鶴自動車道（現舞鶴若狭自動車道）が中国道とつながり、丹波と阪神間が高速道路でつながりました。高速道路がない時代は、丹波の産品を関西や東京の都市部の百貨店で開かれる物産展に持っていくと喜ばれました。しかし高速道路ができる、現地に來てもらおう「観光の時代」になっていくだろうと考えました。その頃から「やながわ」の業態を大きく変えようとし始めたのです。

——翌年の89年にはNHKの大河ドラマで「春日局」が放映されました。

柳川 まさに「春日局」を見て、地元のお土産を作ろうと考え、黒豆の加工食品を売り出しました。商品名は春日局の幼名「お福」を使った「お福豆 しぼり」です。最初の加工は外注でしたが、翌年90年に東京の歌舞伎座でも「春日局」の公演があり、「お福豆」をお土産として売ると、めちやくちや売れたのです。その後、加工を内製化して、煮豆と黒豆のしぼり豆の加

工場を整備しました。お茶の加工をしていましたので、ものづくりへの強いこだわりがありました。食品の加工技術を外注先の人たちに教えてもらおうなど多くの人に助けられました。

丹波の産品で6次産業化目指す

——2005年に「夢の里やながわ」を開業され、和洋菓子の小売業に乗り出されました。ここで会社が大きく変わりましたね。

柳川 中小企業の経営革新に対する兵庫県の支援制度があり、自社の強みや弱みを分析しました。2000年ごろです。丹波は栗や黒豆、大豆の産地です。そういったブランド力のある一次産品を京都や大阪に流すことで商売ができていました。ある意味、一次産品の供給地域として満足していたのです。しかし、丹波の産品を丹波で加工し、お菓子などにして付加価値を上げれば、雇用や市外との交流が生まれ田舎の活性化につながると考えました。いわゆる丹波地域内での6次産業化を目指したのです。

——和洋菓子づくりや小売業は未経験の分野です。苦

労はありませんでしたか。

柳川 初めての経験でしたが、オーブンの設備を買った会社の担当者さんには大変、お世話になり、加工技術などを教えてもらいました。黒豆などの加工で外注先に教えてもらったように協力してくれる人が不思議なことにもいつも現れるものです。丹波の産品を東京や大阪で小売することについても高いハードルを感じたことはありません。若い時から東京や大阪の百貨店で開かれる物産展でお客様と接していました。丹波の産品にブランド力があることは肌で感じていましたし、お客様と対面し、いろいろな学ばせてもらいました。

東京でも実現したい「夢の里」



東京春日店の玄関前で

まさに矢野住職との出会いのような「縁尋機妙」で助けてもらったということですね。今後、どんなお店を目指されているのでしょうか。
柳川 お店を「夢の里」と名付けたのは、自分の

店だけではなくて、そこから夢、志、希望といったものが広がっていく里というイメージを思い浮かべているからです。例えば奥深い山に綺麗な桜の木があるとします。少しずつ花見客が増え、道が整備されて開けていく。そんな深山の桜のような存在になりたいですね。05年に春日町に「夢の里やながわ」を開店したころ、周りにはみんな田んぼで、何もありませんでした。でも今は、ずいぶん開けました。

——東京の春日の店も人が集まって欲しいですね。

柳川 コロナ前には文京区と丹波市とが交流する機運が高まりました。コロナ禍で少し足踏みをしましたが、まずは民間ベースで連携していきたい。今年も10月21日には麟祥院で春日忌が催されます。関東氷上郷友会の会員の皆さまにもぜひお越しいただきたいですね。東京春日店が丹波市への玄関口になるよう頑張ります。

インタビュアーの言

上 高子 協力者を次つぎに見つけ出す才能は、柳川さんの謙虚さにある、と思いました。
(氷上町出身)
安井孝之 「縁尋機妙」での東京出店は必然でした。柳川さんはチャンスを活かす名人です。
(氷上町出身)



わが旅立ちのとき

平田 岳史（東京都目黒区）



今から40年ほど前のことである。高校から帰ると2歳年上の姉貴が「合格通知が来てるよ」と私に分厚い封筒を手渡してくれた。中を開けると合格通知とともに、入学金の振込用紙が入っており、合格という晴れがましさと親に経済的負担をかけるという申しわけなさ、大学では何が始まるのかという未知への期待、さらにこれからは郷里を離れて東京で一人で暮らすという心細さが一気に押し寄せてきた。これほど様々な感情を誘起させる手紙は初めてであった。

親父は東京神田の出身であり、大学に行くなら東京に行けと日頃から言っていた。当時の私は丹波が生活の全てだったので、大阪であれ東京であれ、都会に行くという点では大差はなかった。しかし結局は東京に



2023年2月上旬にスロベニアの学会で研究成果を発表

行くことを決めた背景には、親父の考えが染みついていたのだと思う。

東京では、少し堅めのお米を「こわいお米」という。初めて米を買いに行ったときに、店のおばさんに「このお米は少しこわいよ」と言われた衝撃は今でも覚えている。さらに大学の教授と話す時に、自分なりに最高級の敬語を使って話しているつもりだったが、関東出身の友人からは「お前、よく教授の先生にタメ口で話せるな」と言われ、初めて言語の壁の大きさを痛感

した。

私は、飯田橋にある東京理科大学理学部化学科に進学した。化学科の定員は100名で、合格発表では100位までが合格、101〜200位までが補欠合格であった。私は

見事に補欠合格であったので、入学時には自分は合格者の中では上位ではないことが明らかになった。今度は高校での二の舞は踏めないと思った。実は高校時代に受験で苦い経験をしているのだ。

私は柏原中学校に通っていた。高校進学に際して担任の先生からは「おまえは大丈夫だ。柏原高校に合格できるよ」と言われ、それを信じて受験に望んだ。確かに中学校の先生の言うとおり柏原高校に合格はしたが、高校1年生の時は「自分は優秀なのだから少々勉強をサボっても大丈夫だろう」と考え、勉強せず寝てばかりいた。そのため成績はみるみる下がり、高校一年の夏には学年320人中で200番代後半にまで落ち込んだ。こんな状況でも、何かの間違いだろう、とか、そのうち状況は改善するだろうと甘く考えていた。いずれ大学受験で大変な苦勞をすることになるとは夢にも思わなかった。その頃の私を見て親父は特段に何も言わなかったが「毎日、1時間でいいから得意な科目を勉強しなさい」とだけ言った。しかしその一言が私を助けたと今でも思っている。

高校生活はこのような甘い考えでのスタートであっ

た。一方で大学生生活は補欠入学からのスタートである。私は塾と言えば習字塾にしか通ったことがない田舎者である。こんな田舎者で補欠の人間が都会の大学での勉強について行けるのか、当時は不安しかなかった。

しかしこの不安、言い換えれば「崖つぶち感」があつたからこそ、大学では受験勉強以上に熱心に勉強に取り組むことができた。当時は自分の限界も知らず、分からないことなど何も無いと信じていた。あの頃は私はまだ若く、何もこわいものが無かつたのだと思う。しかし思い返すと、あの頃の必死の勉強が今の基盤になつて居るのは間違いない。人生において、合格よりも補欠合格の方が、本当は人の幸せに繋がるのではないかと今でも思う。

東京理科大学は本当に厳しい大学であつた。学年が高くなると講義に対して実験科目の割合が多くなる。実験科目の合格は進級の必須条件なので手が抜けない。実験は長時間にわたつて拘束されるだけでなく、それぞれの実験で翌週には課題レポートを提出しなければならぬ。友人も私も、みんなが夜明けまでレポート作成に追われていた。そんな忙しい中でも友人らとは

少しでも時間があれば喫茶店に出向き、未来を語つた。私には戦争の体験はないが、当時の友人は戦友であり同士であつた。彼らと会う機会は殆どないが、今でも彼らの笑顔は今の自分を支える財産である。

東京理科大学の卒業生は中学・高校の教諭を目指す学生が多かつた。私も大学卒業後は兵庫県の教員になろうと思つていた。しかし、当時の教員採用試験の倍率は高く、私のような半端者が高校教諭になれるとは思えず、さらに自らの責任感の無さを考えると果たして高校教諭に向いて居るのかという疑念が晴れなかつた。そこで郷里の両親に嘆願し、大学院修士課程に進学し、あと2年の研究を続けることにして進路はその時に考えようと思つた。今思えば決断の先送りである。

大学院は、東京理科大学教授で恩師でもある関根達也先生の強い薦めがあり東京大学に進学した。東京大学は様々なことに秀でた人が沢山いて多めに刺激を受けた。全ての東大生が研究で優れているわけではないことも入学して初めて知つた。しかし「高い山ほど裾野は広い」という言葉を実感したのは、東大の学生さんと机を並べることができたからだと思う。こうした

学生達に囲まれ研究生生活を続けていくうちに、次第にアカデミックな道に惹かれることとなり、現在に至っている。関根先生にも、東大時代に好き勝手な研究をさせていただいた恩師・増田彰正教授にも、感謝と尊敬の念は今でも色あせない。

こうした成り行き任せの東京暮らしであったが、東京で初めて一人暮らしを始める日のことに話を戻す。ようやく本題である。柏原から上京するとき、箱パン（家具や机などの少し大きな荷物が運べる車）で上京した。親父が運転し、東京が好きで姉貴が同行した。杉並区高円寺の下宿に家具を設置し（実家が木工だったので部屋にぴったりの家具を作ってもらった。しかし大学3年生の時に、類焼によりその家具は全て消失してしまった）、全ての作業が終わり、いよいよ親父が柏原に帰ることになった。

私と親父は高円寺駅から総武線に乗り、私は大学のある飯田橋駅に向かい、親父は箱パンが駐車してある品川駅に向かった。代々木駅で親父は山の手線に乗り換えるために下車し、私はそのまま総武線で飯田橋駅に向かった。

私は、親父が電車を降りるときにただひと言、「色々」と有り難う」と礼を言った。親父はこれに対して何も言わなかったと思う。ホームに降りた後、振り向いて手を振ろうと思ったが、なぜか分からないが「これは旅立ちであり、これからは一人で生きていかなきゃならない。振り返ってはいけないのではないか」という思いがよぎり、敢えて振り向かなかった。おそらくホームに一人残された親父を見るのが寂しいという気持ちも合ったと思う。どうして義務感に似た思いで振り返らなかつただろうか。それが私にとっての東京生活の始まりであった。

その後、おそらく10年くらい経った後だと思う。親父の知人から代々木駅での別れの話を聞いた。

親父はその知人に「代々木駅で息子が振り向いてくれなかつた」と号泣していたというのである。あの日の代々木駅での出来事は、私にとってはわずか数年間の東京暮らしの始まりでしかなかつたが、親父はもう二度と一緒に暮らせないことが分かつていたのだろう。事実、あれから柏原で暮らす機会は未だに無い。

振り向くな。

振り向くな。

後ろには夢はない。

これは寺山修司の言葉である。私はこの言葉が好きで、実践しようと考えていた。前を向いて歩くことは大切であるが、時として前を見るのが疲れることもある。ホームで振り返らなかつたあの時の私は若かつたが、還暦を過ぎた今ではホームに取り残された人の気持ち理解できるようになった。後ろに夢はないかもしれないが、いつでも心の原風景を見ることはできる。

（柏原町出身、柏原高校昭和56年卒。東京理科大学から東京大学大学院博士課程終了、理学博士。東京工業大学准教授、京都大学理学部教授を経て、2016年から東京大学大学院理学系研究科教授。微量元素の分析が専門）



撮影・岡 吉明

今も忘れぬ社長の言葉

徳田 邦 男（愛知県弥富市）



私は柏原町母坪出身で、現在、愛知県弥富市に住む新入会員です。何卒宜しくお願い申し上げます。同郷の母坪出身、徳田八郎衛さまから「山ざる」や丹波について記された書籍を何冊か頂いて、「丹波について研究した、こんな立派な会誌や本があるのか」と驚き、丹波を再発見できました。また会誌から、多くの丹波出身者が日本や世界で大活躍されているのを知りました。これは丹波の誉です。また、1966年の初号から60年近くも発行を続ける「山ざる」も丹波の誉と言えましょう。是非、次世代につないで下さい。

その貴重な紙面を借りて皆様にお伝えしたいのは、生後18年を過ごした丹波しか知らない私が1961年に郷里を離れ、就職した大阪の会社の社長の言葉です。



福知山商業高校（現福知山成美高校）卒業時の筆者

私が就職したのは「東洋プラススクリー（現在、トープラ）」でした。

社長の言葉は、「社員の皆さんを幸せにしたい。そして私も幸せになりたい」でした。私はとても驚きました。田舎の高校生だった私にも「会社は慈善団体ではなく営利を追求する組織であり、それがなければ給与も配当金も支払えない」というぐらいの認識はありましたが、それとはまったく異なる考え方でした。

その後、何回も社長の話を聞き、社長が書かれたものを読む機会もあって彼の思想がわかってきました。簡単にまとめると「個人の能力には限りがある。会社にしる、社会にしる、他人の助けを貰い協力しあってこそ大きな仕事ができる。その順序であるが、助けを貰ってからお返しで助けるのでは駄目だ。まず隣席の同僚を、上司を、会社を、ひいては社会を何かで助ける。何かを与える。これから始めましょう。最後に自分も幸せになれる」という思想です。

親会社「日本発条」の会長も兼務されていた、この心優しい社長は、後に勲二等瑞宝章を授与されました。彼の「みんなを幸せにしたい」が「我が旅立ちの時」に貰った言葉で、これが人生のスタートとなりました。これを自分なりに解釈し、「①自分が幸せになるよう心掛ける②自分自身で幸せを作り上げる③幸せは、自分で感じることである」と定義づけました。この教えを、その後の人生に少しでも生かすことができたことを感謝しています。

五十路になっても「お言葉を頂く」のは続きます。関東勤務や九州勤務を経て二度目の関東勤務（本社勤務）に向かう時、鈴鹿の自動車メーカーの部長さんから「本気でやれば①何事も楽しい②大抵の事はできる③誰かが助けてくれる」という三訓を賜りました。本社での新しい顧客は住宅建設の業界でした。製造物責任法（PL法）も施行され、「中高生時代にもっと真面目に化学を学ぶべきだった」と悔みながら新建材を勉強しましたが、部長の予言通り多くの仲間が助けてくれました。

それまでは丹波弁と大阪弁のミックスで世渡りして

きましたが、「本社勤務なのだから」と付け焼刃の関東弁で「ダツテサー」に変身。しかしお客様が「下手な関東弁使うより関西弁で通す方が貴方らしい」と助け船を下さいました。社長の言葉通り、同僚や上司、部下に助けられ、そして営業マンとしては一番大切なお客様に助けられて私は過ごせました。果報者です。

そして1996年に弥富市民となって27年を迎えました。ここは金魚の街です。江戸時代末期、奈良の商人から金魚を買い付けたのが始まりでした。そして1994年7月に金魚6匹が、女性初の日本人宇宙飛行士向井千秋さんとスペースシャトルに搭乗したのです。

今年は何郷柏原を離れて62年目。80歳を迎えます。丹波に生まれて良かった。私は今も丹波が好きです。「丹波大好き」の皆様とご一緒出来て、これが最高の傘寿記念となりました。

(柏原町出身、福知山商業高校〈現福知山成美高校〉昭和36年卒)

私の家庭菜園と独り言

大野 富士夫 (千葉県松戸市)



子供が小学校低学年の頃、光化学スモッグの影響で子供の咳が多くなり、当時の住まいより30分程度、通勤時間が長くなるものの、緑の多い所に引越す事になった。

引越した住宅地の中に、整備、除草されている未耕作の畑があった。借りて家庭菜園でもと思うも、会社務めである。耕作は休日に限られ更に休日が雨天の時もある。耕作時ついつい素手で作業し、爪に泥が付着し、取れにくい汚れもある。当時は顧客とお会いする事も多く、手の汚れも気になり家庭菜園を、お借りするか2〜3年躊躇していた。

後日、家庭菜園をされている方と知り合いになった。菜園について色々お聞きし、丹波の兼業農家に生まれ時々ヒルに血を吸われながらの田植え、草刈り、稲刈



り等、大変だった事を思い出すも、紹介頂いた地主さんに、わずかな面積の借用をお願いし、無料で貸して頂けることになり、菜園を始める。(但し、無料では申し訳ないので、暮れにわずかばかりの、お礼はした)。田舎育ちであり、簡単に作物栽培は出来ると思ひ、菜園を始めるも、田舎では手伝いをしただけで、耕作に最も重要な土壌作りの事は何も教わっていない。田舎育ちというだけでは何の役にも立たなかった。

肥料の袋に記載されている分量を参考にしながら作物を育てるも、青虫、あぶら虫、ねぎり虫などの害虫、又、綺麗な耕し、種を蒔いた所に猫の糞尿、カラスなどによる被害に悩まされながらも家族で食べる事が出来る程度の野菜が収穫出来た。

毎年、同じ品種を同じ場所で作ると、連作障害で生育が悪い事は知っていたが、トマ

ト、ナス、ピーマンとジャガイモは同種である事を知らず不作為みであった。(数年後、トマト、ナスビ、ジャガイモ等は同じ種類と知る)。

お借りして数年後、その畑も住宅地となり、家庭菜園は、止める事になった。

その後、現在地に引っ越し、定年を少し延長し退職した。2、3の趣味はあるが、毎日が、日曜日の様であり、暇を持て余し気味でいた時、ある趣味仲間と雑談した。ある方は、多趣味で、勤めていた時より、多く家を空けている。別のある方は、百名山の登頂を、又数百軒の町内会役員、民生委員、ボランティア活動、老人体操会主催等、何がしかの事を、なされている方が多くおられることを知り、自分も何かやろうかと思ふも、秀才も何の取柄もない。又、仲間と何かする場合、守るべき日時の拘束があり、自分の都合の良い日、自由な時間に、気ままに出来る事が何かないかと考えるなか、前から楽しんでる野釣は、遠方に出かける必要がある、毎日毎日は無理である。他に何かと考える折り、以前経験した家庭菜園を思い出し、菜園を探すことになった。



自宅近くの菜園

は、賃貸料が1㎡40円/月、他の所は、水道設備付、1㎡190円と高く、どうしたものかと思案していた所、車で15分程度かかるも、森の中を抜けると、稲作30%、畑70%の、田園風景が広がっていた。此処なら良さそうと物色していたら、うまい具合に、その畑を、以前のように、年末に付け届ける程度の賃料で借りることが出来た。

借りた当時、水路ではカルガモ親子を見る事や又螢の時期には、孫を連れて、蛍狩りも出来た。

現在、稲作農地については耕作放置され、水路には雑草が生え、水の流れが悪く澱み、螢の代わりに、ザリガニが生息、夏休みになると、ザリガニ捕りで、狭い水路は、子供の遊び場になっている。蛙の卵を見た事はあがるが、おたまじゃくしは殆ど見ない。多分ザリ

ガニに食べられているのではないかと推測する。

家庭菜園年数が延べ20年程になり、一般的な野菜30種類程度と、一時、興味本位で、流通量の少ないと思われるルッコラ、ツルムラサキ、オカヒジキ、ビーツ、空芯菜、蕎麦の芽、はやと瓜、菊芋、山ウド、食用菊等も作っていた。栗、黒豆、山芋が田舎の特産だった事を思い出しては、種芋を田舎から取り寄せ、育てるも、形が悪く、大きくならず廃棄する。又、黒豆も、満足出来るものではなく、やはり気候風土、土壤に大きく関係する事を認識し、最近では、店頭で販売されている慣れ親しんだ野菜を主に栽培している。

露地栽培は、害虫、霜、ハクビシン、カラス、野良兎(飼っていた兎)等の災害や、狭い畑の連作問題、土休めと、肥料、石灰散布量等、覚えておく事が多く、体力の衰えもあり、今年から、栽培面積を90坪から50坪にするも、家庭で食べるには充分な野菜が出来、自己満足している。食べきれない野菜はご近所に差し上げている。

栽培の話ではないが、子供の頃、稲わらは、牛の餌、牛の床、堆肥、縄等に利用され、又、もみ殻は、田畑

で燃やし、堆肥にされる程度だったと記憶しているが、稲わらが2〜3束で400円、もみ殻40ℓ入り袋が300円で販売されており吃驚している。

庭やベランダに花を植え、成長過程や花の鑑賞等を楽しんでおられる方もありますが、世話をしている時は一時、色んな嫌なことを忘れられると思う。家庭菜園も同様、土に触れ、育てる事には変わりなく、土を耕し、雑草処理、種まきと、腰を曲げ、汗をかいての作業等が多くあり、疲れる事も多いが、休み休みしながら、自由気ままに、時間を過ごす。作業中は日頃の嫌な事を忘れ、育て成長する過程を楽しみ、育った野菜の収穫時の満足感を得る。日光を浴び、耕作による適宜な運動と、ボケ防止、木々の緑、新鮮な空気、田舎の風景に、目や心が癒される。出来不出来はあるも、出来るだけ無農薬の、安全で且つ、新鮮野菜を収穫し、食べる事が出来る事に満足している。

(市島町出身、柏原高校・昭和36年卒)

気づきと自己変革

上 高子 (東京都世田谷区)

はじめに



「話せばわかる」と言いながら、反乱軍に殺されたリベラルな故首相・犬養毅をよく思い出す。私も、

他と分かり合うには、言葉を尽くしてコミュニケーションすることの方が大事だ、と思うのだが、どうもそう簡単ではない、と最近つくづく実感している。互いが、相手を説得したい、と思えば自説を主張するだろうし、特に相手に反感を持つていければ、最初から聞く耳を持たないのだから。

20年前に私が先導して立ち上げたNPO法人「アジアの新しい風」(以下アジ風)は、女性が中心で組織作りをし、それまでのヒエラルキーとは違う、みんな自由に発言し、試行錯誤しながら作り上げる組織にしたかった。そのうち会員の半数が男性になり、役員

の構成も半々になった。「40年間の会社生活で、成功体験をした人間が、セカンドライフの20年間、その体験を生かしてやろうとするのは当然」と、ある男性会員は言った。大手企業の間管理職だったらしい。男性たちのビジネス活動における成功体験を否定するわけではないが、そのままNPO運営に持ち込むのはどうか、としばしば思う。

彼らの中に、「女性は男性に劣る」という先入観があるのではないのだろうか。もちろん経験不足は認めるが、男性が築いた日本社会の組織には、陳腐なものや、形式的で柔軟性に欠けるものがあつて、窮屈でしようがないと感じている。

男性優位の日本社会

ジェンダーの問題では、日本は先進国においてのみならず、グローバルな順位でも、相当に男性優位の社会であると統計が示している。アジアと交流するアジアの4か国（中国、タイ、ベトナム、インドネシア）は、どの国も日本より女性の社会的地位の順位が高い、と知って驚いた（2022年の調査では、日本は14

6ヶ国中125位）。そこで、交流するこれらの国の若い女性（日本留学体験者）たちに、日本社会のジェンダーギャップをどう見るか尋ねたら、6割強が「その通りだ、と思う」と回答したのだ。この課題をアジア内で取り上げたとき、男性会員たちはどう思ったのだろうか。「それまで当たり前と思つて生きてきたことが、他の視点から見ると、どうもそうではないのでは」と気づいたとき、人はどう反応し、対応するのかに興味がある。中には自己改革に取り組んで少しずつ変化が見える男性も散見され、心底尊敬してしまう。

もちろん世界標準のデータは政治・経済・教育・健康のみを対象としていて、家庭内や、幸福観については言及していないため、日本女性が不幸せとは断言できない。けれども、いわゆる社会的地位において、日本人男性は「女性は組織の中では下位で、男性のサポートをすべき」というバイアス（偏見）を持つている自分に気づいているのだろうか。

特にプライドの高い男性は、女性が何か反対意見を言つたり、提案したとき、「差し出がましい」という、明らかに「女のくせに」という差別的な反応をしたり

する。「女が会議に入ると時間がかかる」と正直な気持ちを持ちを吐露して、地位を失った人がいた。女から指図されたくない、と思っている男性はいっぱいいる。私はこのところ、どうしたら彼らのジェンダーバイアスを「気づき」をもたらせるか、と日々苦慮している。

私自身の気づき

そういう私もアジ風を立ち上げてから、自分自身が「気づき」（目からうろこ）を頻繁に体験してきた。最近の気づきは、日本の戦後教育には、アジア諸国への配慮が欠けていたのではないか、ということである。

生まれた年は終戦の前年で、戦後教育は反戦一色だった。日本国憲法の武力放棄に正義感を漲らせた。女性も参政権を、という新しい時代の雰囲気の中で育ち、「お母さんも一票を」という標語を習字の半紙に書いたことをよく覚えている。黎明期を過ごしたと思っていたが、どうもバランスを欠いていたことに最近気づいた。占領軍の意向が強く反映したのであろうが、日本社会のみならず、この私も、外国はアメリカだけ、外国語は英語だけ、日本が向かう道は欧米一辺

倒であった。その偏向に気づくのは日本語教師になってからのこと。

8年前に、アジ風の訪問旅行で、ベトナムへ行った。その頃懇意にしていたベトナム人留学生の郷里まで足を運び、一族と輪になって食事をし、抗米戦争で勇敢だったベトナムの人々について話していたときのこと、「娘さんが日本の大学ではなく、アメリカへ留学したいと言ったら反対でしたか」という私の質問に、お母さんは答えた。「日本留学もベトナム人にとっては同じですが、本人の意思に任せました」。私はそのとき、ベトナムの人にとっては彼らに苦難を与えた加害者という観点で、日米にそれほど差がなかった、ということに気付いたのである。その留学生からは、「歴史の授業で、日本軍は兵士の食料にお米を強制調達し、大勢のベトナム人が餓死したと習いました」と聞いた。アメリカのせいにはばかりにすべきではない。最近読んだ本では、太平洋戦争では300万人の日本人死者が出たが、アジア全域では2000万人の死者だったそうだ。その割には、日本はアジアへの謝罪を充分にしていないという。その筆者が日本人女性で、日本を

含め世界各国で暮らした学者であり、現在はアメリカの大学で日本史を教えている人物なので、説得力がある。

そんな事実を我々の世代は学校で教えられただろうか。縄文時代から始まる日本史の授業は、近現代は時間が足りなくて、すつ飛ばされた気がする。日本はもつとアジアに目を向け、欧米との懸け橋になるべきなのに、先進国の仲間入りを得意気に、ずつとアメリカ一辺倒であったり、欧米ばかり追っていたりした。そんな私自身に気づいて、今は自己改革途上人である。

結び

要するに、われわれ人類は、まだまだ弱肉強食の域をでていないのであろう。強いものが勝つ、長いものには巻かれる、という現実を認めよ、ということなのか？ 実際のところ、軍事力が世界を牛耳っているではないか。国連の人権活動がこれほど声高に叫ばれても、国民国家の国益が優先されるナショナリズム優先の現実は否定しようもない。

もうひとつよく思い出すことがある。政府機関に長

く勤めた知人男性が、「NPOなどの草の根の運動は力が弱い。政府などの権力には到底及ばない」と言い放ったこと。それはよくわかる。どんなに辛い戦争体験や反戦の運動が、これでもか、これでもか、と繰り返し報道されても、政府など国家権力の決定の前にはまことに微力である。

でもでも、思いたい。もしこの弱き草の根の人々が数の力で、政府の権力を凌駕したら、どうか。それこそ民主的な手段（選挙）を通して、弱肉強食の社会、あるいは既得権益のはびこる社会を変えることができたら、と遅ればせながらこの歳になって夢想している。そうはいっても、アメリカ社会で見ると、日本国民の分断は望むところではない。すべてイエスカノーかという二者択一の世界は間違っている。お互いがコミュニケーションを通して近づくことができる、と信じて余生を生きていきたい。

小生意気なことを書いてしまつて、ちよつと気恥ずかしい。でももうすぐ傘寿。言いたいことが言える日本であることを有難く思い、終活のひとつとしたい。

（氷上町出身、柏原高校・昭和38年卒）

「これが最後と口々に言ふ」 73年目の同窓会

坂上 勝 朗（板橋区在住）



「同窓生各位
旧葛野中学校同窓会の開催につい
て

米寿を迎え健康の度合いも様々か
とおもいますが、ご健勝にてお過ごしのことと思います。
コロナ禍のため3年に亘り中止を余儀なくされまし
たが（これが最後になるかも）同窓会を下記の通り開
催することになりました。元氣な姿を見せてくださ
い。」
〓まま 以下略〓

ここにいう「同窓会」とは、昭和16年4月に国民学
校初等科1年に入学し昭和25年3月に新制中学校を卒
業した者たちの集まりで、正しくは「学年会」という
べきものなのでしょう。卒業時の生徒数は73名。A
組・B組に分かれていましたが、とても仲が良かった

記憶があります。そのせいか、卒業の翌年から社会人
になってからも、ほぼ毎年「同窓会」を開いてきたの
でした。これは、在郷の人たちが、輪番制で当番を決
めて、会場設定・通信などの労を取ってくれたおかげ
と、さらに、町営の保養施設「やすらぎ」ができて、
会場設定が容易になったことなどが、幸いしました。
（やすらぎ）はこのたびのコロナ禍騒動のため廃業と
なってしまうました。再開のめどは立っていないとの
こと）

さて、冒頭の勧誘状の復信片には、出席に○をつけ
て間を措かず投函。そして当番長に電話。

私「何人くらい集まりそう？」

長「わからん」

私「一人でもやるんか」

長「やる、おまえと二人じゃ」

その意気やよし。早速柏原のホテルやタクシーを予
約し、旦那寺や隣近所には訪問日時の諒解を得、新幹
線、福知山線の乗車券を確保。4年ぶりの東京発を待
ちました。

集まったのは12名（女子4名、男子8名）、4年前

の人数との差はなく、みんな上手に年を取ったという感じでした。

会話を楽しんだのは3時間ほどの事でしたが、平成31年3月(2019年)以来の出会いとあつて話したことが次から次へとあり、88歳のじじ・ばばの集まりにしては、なかなか熱いものがありました。

しかし、この4年ほどの時間の経過は、限りある命の持ち主たる私たちにとって、極めて残酷なものであることも、今更ながら感じさせられたひと時でもありました。

因みに、当番長の報告によれば、今回葉書を出したのは、平成31年現在の名簿に基づく53名。内出席通知13名、欠席14名、無返信2名、死去16名、あて先不明8名。

わたくしには、この同窓会のほかに、帰京のついでにやっておかなければならないことがありました。先祖の墓参りと、近所への挨拶回りです。わたくしの家の墓は、9年前に現住まいのある板橋区へ改葬したのですが、丹波坂上氏始祖と一族の墓には、帰省ごとに参ることにしています。また、現在の旦那寺たる禅

勝寺(氷上町上新庄)さんには、檀家として先祖供養をしていただいております。将来のことを考えると墓はもう移転してしまつたので心配ないとして、お寺さんとのありようをどうするかの問題が残っています。

檀家を脱会するにはどのような手続きが必要か、お寺の位牌蔵に安置されている先祖代々の位牌の処置はどうするかなど、教えを請わなくてはなりません。

しかし、これは諸事情があつてお寺さんに時間を取つていただいていたにもかかわらず、持ち越し問題となつてしまいました。出来るだけ早い機会に、お話を聞く機会を設けなくてはなりません、生来のズボラにて、気ばかり急いているのが現状です。

近年、「墓じまい」について、お悩みの方が多くと聞きます。墓じまい経験者として、時折相談を持ちかけられることがあります。宗派やご家庭の諸事情があつて一概には申し上げられませんが、一番肝心なことは、「墓じまい」を迫られているご本人の、いつまでに決行するかの決断と、行動力が求められます。と申し上げても、取りつく島もありませんので、格好の相談相手をご紹介します。

それは本誌に広告を出しても頂いている「丹波石材」の堀公二氏です。墓を移転するには、役所と墓地管理者との間に様々な書類のやり取りが生じます。そのアドバイスを懇切丁寧にしてくださるはずですが、旧墓石は碎石処理をして、墓地を更地にする必要があります。この相談にも気安く応じてくださるでしょう。つい、石屋さんの宣伝の片棒を担いだようになつてしまいました。ほかに、丹波市役所なら市民課、あなたのお住まいの近くの墓石屋さん、墓地業者など数多相談先は存在します。どうぞよい「墓じまい」がされますようにお祈りします。

(氷上町下新庄出身)



撮影・岡 吉明

音楽と私 Ⅱ

頼 澤 豊 (町田市)



令和4年の1月の下旬、私は心筋梗塞の発作に襲われ近くの大学病院に緊急入院しました。早速ステント治療が始まったのですが、担当医から「血管が1本完全に詰まっているので、万一のために手術の準備を整えないと危険なので処置を一旦中止します」と告げられました。幸い色々ありましたがステント治療がうまくいって、集中治療室を含め2週間入院して無事退院することができました。

その1ヶ月ほど前の年の暮れに長年取り組んでいた弦楽四重奏(12分位の作品)のスケッチを完成させていたのですが、細部の書き込み等まだやり残している部分があり、入院当初「まだやり残していることがあり、家に帰りたい」と言ったところ、担当医から「命の保証はできません」と言われ、何ともいいようのな

い今までに経験したことのない絶望的な気分を味わった次第です。

弦楽四重奏は二つのヴァイオリンとヴィオラ、チェロの四つの弦楽器によるアンサンブルで、古来その切り詰められた編成故に個々の作曲家にとつてその力量が最も顕著に表れるジャンルであり、それは厳粛にして真に精神的、本質的な作品群であるといわれることがあります。因みに一番古い例の一つであるA・スカルラッティの「二つのヴァイオリン、ヴィオラ、チェロのためのチェンバロを伴わない四重奏ソナタ」以降、ハイドンによつて確立され、モーツアルト、ベートーベン、シューベルト、メンデルスゾーン、ブラームス、ドボルザーク、ドビュッシー、ラヴェル、シューンベルク、バルトーク、ウエーベルン、シヨスタコーヴィチ等、脈々と優れた曲が作られています。

さて今日、歌謡曲、ポピュラーソング、ジャズ、ロック等ほとんどの音楽において、その複雑な進歩形を含めてコード（和音）進行を中心に楽曲が作曲されています。一方私を取り組んでいる現代音楽という領域はというと、それを分かり易く絵画に例えるならば、

それまでの伝統的な写実的な絵画から突如20世紀に現れたピカソ等の抽象的な絵画の領域に重なるといつていいと思います。1960年代は12音技法やトータルセリエの技法を用いた作品以外は現代音楽ではないといわれた時期もありましたが、現在ではどんな手法もオツケーで（パントナール＝汎調性）、いいものがないという単純で分かり易い価値観が基本になっております。

今、「あなたにとつて現代音楽とは何ですか」と尋ねられれば、私のイメージとしてそれは、混沌、不協和な状況（＝音群）の地平に突如析出する複数の刹那的な輝き、一条の透徹する振動、そして沈黙といったものになります。

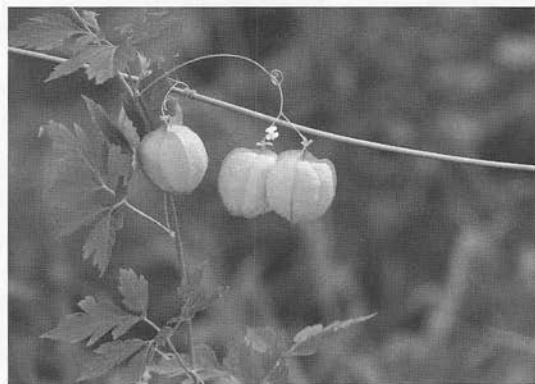
私は以前から短二度（例えばドとドシャープ）という不協和な音の複数の堆積に対してどのような音の組み合わせがいい響き（調和的、非調和的を含め）になるかを日々試行錯誤しておりました。今回の弦楽四重奏では短二度の複数の堆積と増四度（例えばファシの音程でキリスト教の文化では悪魔の音程として忌避されていた）の複数の堆積の組み合わせというコンセプト

トで全体を仕上げることができ、自分としてもこれからも、もう少し作曲の勉強を続けていこうという手懸かりが得られ、その意味ではやめないうで続けてきてよかったです思っております。

最後になりましたが、現代曲の弦楽四重奏のいくつかを記しておきたいと思えます。バルトーク（I）。シエーンベルク（I〜IV）。ウエーベルン（作品5・9・28）。ペンデレツキ（I、II）。ファーンニホウ（II）。三善晃（II）。細川俊夫（原像・ランドスケープI）。藪田翔一（エッジ）。武満徹（ソソカリグラフィI、II、III、弦楽四重奏X2）……。

（昭和21年生まれ、春日町出身）

編集部注・頼澤さんの「音楽と私」は「山ざる」第49号に掲載されています。今回はその2です。



撮影・岡 吉明

私の職場

東京海上日動メディカルサービス株式会社 顧問

福西みのり



2014年の取締役就任時

「健康未来」を目指して 「女性初」でがんばる

私は東京海上日動メディカルサービスという会社の顧問として働いています。市島町に生まれ、柏原高校卒業後、名古屋の国立病院の附属看護学校に進学し、国家資格を取得し大阪の病院へ就職。子供たちが小学生になった頃に今の会社に転職し、10年前には取締役に。今も大阪から

東京に単身赴任中です。

私の職場は、東京海上グループの医療健康関連事業会社です。ここからからだのトータルヘルスケアコンサルティング企業として、健康保健支援サービス、健康維持増進サービス、メンタルヘルス支援サービス等幅広いサービスを取りそろえ、「健康経営」「健康増進」に向けた取り組みを支援しています。医師、保健師、看護師、臨床心理士などの医療のプロフェッショナル集団が一致団結し、ワンストップでのサービス提供を目指す会社です。

そのプロフェッショナル集団の中で私は、診療所の立ち上げ、産業保健支援サービス、採用や人材育成など医療経営の色々な場面で様々な仕事を任されてきました。今に至るまでの道のりを振り返ると、苦難の連続でした。それでもあきらめないで前に進もう！という気持ちを持っていたこと、何よりも周囲のみんな

の支えがあったからこそ、何とか苦境を乗り越えられたのだと思います。幼い頃から小学校の教師になりました。幼い頃から小学校の教師になりました。父から手に職を持つ職業として看護師の仕事をお勧めされましたが、不器用だし人の世話なんて無理だと思っていました。高校3年生の6月にけがで入院した時に接した医師、看護師の対応に感動し、父の言葉も思い出され看護師の道を選択しました。3年生の夏休み明けに学校選びが始まり、理数系を選択していない上に、ギリギリのところでも方向転換をしたので、担任の廣瀬先生から心配されたことが今も記憶に残っています。

看護師としてのスタートは大阪府吹田市にある国立循環器病センター（現、国立循環器病研究センター）のICU（手術後の集中治療室）でした。人の生死が刻みで変化する場所である心臓血管外科のICUという厳しい医療現場で働く中、知識



東京海上日動メディカルサービスの岡村社長（左）と橋口部長（右）と本社で

以上に身に付いたのが即時の判断力と強い精神力でした。今思えばこの経験が自分を支えてきた信念である「最後まであきらめない」に繋がっているように思います。そしてもうひとつ、昔も今も人が好きで人の役に立ちたいという気持ちですが、私の人生を大きく広げる源となりました。

この病院ではICU、手術前の内科病棟、緊急外来を経験し、集団検診部、研究所の疫学部でも勤務しました。集団検診部ではS市の住民を対象に健康セミナーの実施や心筋梗塞・脳卒中の発症について調査研究を担当。予防医学においても臨床経験を保持していたことは大きな強みでした。こうした国立循環器病センターでの経験は、予防から治療と繋がる知識の積み重ねとなり、その後の仕事にもとても役に立ちました。

1996年、私が38歳の時でした。40歳を前にして次のステップに進むべきではないかという思いを抱えていたタイミングでした。今の会社から新設の「りんくうタウンクリニック」（大阪府泉佐野市）の看護師長として声がかかりました。調査研究とは全く異なる病院の立ち上げという任務の重さに悩みましたが、先輩の後押しや一緒に働きたいという東京海上の方から熱意のある手紙を頂いたことが私の心を動かしました。

この診療所の立ち上げは完全なゼロからのスタートでした。人の採用、医療機器や備品の購入、体制作り、マニュアル作成、そして営業等と沢山することがあり、1日24時間では足りないという日々が続きました。ちようど、その頃、子供たちは小1と小3という低学年で、今、考えればよく両立できたと思います。

診療所立ち上げから6年後には異動となり、企業で働く職員の健康管理事業を行う健康管理支援室の室長に就任しました。その間にも、24時間365日の電話医療相談事業が立ち上がり、管理職として兼務することになり、東京への出張も増えました。いつの間にか困った時の「お助けウーマン」のような存在になっていました。更には経営が厳しくなってきた診療所の事務長を担うことになり、医療職一筋であった私が経営改善に向けて奮闘することになりました。

今思えば、最大の試練は、診療所の立ち上げ、そして事務長の職務だっただけです。この事務長時代には、新システムの移行、フロアーの

改修、経営面では営業体制の改善まで取り組まなければならず、医療のみの経験しか持ちあわせていなかった私には全て初めてのことで、焦るばかりでした。

しかし、「絶対に成功させたい」という私の思いをメンバーに伝え、みんなのベクトルを一つの方向に合わせた結果、協力者が増え、業務が順調に進み始めました。私自身が事務職と医療職の架け橋的な存在になり、これが強みとなり、次のステップに向かうことができたのではないかと思います。

2014年に取締役となり、東京での単身赴任が始まりました。私の異動や昇進はいつも「わが社で初め



趣味のJazzドラムの師匠はサバオ渡辺さん(右)

て」が付いてまわります。女性初の部長、医療職で初めての事務長、女性初めての単身赴任、そして女性初の取締役でした。大事なのは私の後任が続くかどうかです。私がしっかりと仕事をやり遂げなくてはならないという緊張感がいつもありました。

当初は戸惑いや孤独感、すぐ動けないもどかしさ、親会社出身の優秀な男性達（文章力が凄い！発言も鋭い！）と肩を並べて仕事をするプレッシャーを感じました。しかし、私には何事にもものおじしない、粘り強い、素直である、という持ち前の性格と、専門知識を持つているという強みがありました。その結果、多くの職員から相談を受けようになり、後任を育成しつつ制度設計に取り組むことができました。私に続く女性取締役も就任しました。社外でも学会では評議員や代議員を任命され学会の運営等に關わり、某看護学校では海外研修のボ

ランティア教師として毎年参加し、海外にもネットワークを作ることができました。社内外の方々とも今もワクワクしながら交流しています。

わが社が掲げるテーマは「健康未来」。ほんとうの健康から生まれる、幸せな未来を一緒に創ることです。ほんとうの健康とは、身体だけでなく精神的、社会的にも健康であることです。病気になるってからではなく、病気の手前で予防改善させるヘルスケアサービスをたくさんの方々にご利用いただけたらと思います。

これからも、自分自身のコンセプトである「常に最善を尽くし、あきらめないこと」を信念に人との出会いを大切にし、挑戦し続け自分の可能性を広げていきたいと思っています。昨年65歳になったのをきっかけにJazzドラムを始めました。何年後かにどこかで演奏したいと夢を描きながら楽しんでいきます。

(市島町出身)

俳壇

元氣に俳句。俳句を詠むことが元氣の源です。

荻野 哲男 (狭山市)

老いが来てまた夢ありぞ春の夕

殺人のニュースを聞いて床に着く

春の月眺めて昔の友想う

庭の葉に音たてて降る初夏の雨

穂やかに八十路を祝う誕生日

※

やることややりたいことがいっぱいありそうなのに、ちつともものごとがはかどらない。句作も苦策の連続。そんな毎日を過しています。

坂上 勝朗 (板橋区)

久びさに函数解かばや春逝く日

棕櫚の葉の蠅叩きなど君知るや

見つけたる捨女が句碑の苔の花

筍の皮剥くときの動悸かな

紫陽花や律儀に咲きて年巡る

※

丹波市の子ども数も減り、芦田・神楽・遠阪鴨庄の各小学校が閉校。三輪 (美和) も二年後の合併と淋しい状況です。よい智慧がありましたら、市長宛進言してください。

大野 沙年 (丹波市)

這い出して蝮骸となる日射し

棚経に伴ず 跌坐を赦されよ

秋出水篠山川は龍と化す

産土の庭掃き浄む寒露かな

母さんの出た学校よ文化の日

不器用に生き来て米寿年の暮

※

昨年の次兄に続き、長兄が今年の二月に逝きました。

藤田 玲子 (入間市)

うわごとに母の名呼びて兄逝けり

親兄弟あちらが増えて蓮の上
古里の古池に在る蛇いちご

※

おかげ様で数多くの基敵を得て、囲碁三昧のごころですが、一念発起、俳句の勉強を始めました。試作を臆面もなく並べましたが大方のご批評
お願い致します。

坂上 豊（千葉市）

電話あり新米送ると次男より
母の日や妻も母の日祝ひけり
啓蟄や人事異動を吾子に問ふ
夏場所に烏鷺の相手を取られけり
さつさうと義母通院にサングラス

※

上田 道代（目黒区）

願かけるでもなく 夏、法善寺
今井にて鱧そうめんと冷酒まつ
黒南風 阿弥陀如来を仰ぎみる

過ぎしあたり通り雨かな 山けぶる

あじさいの青紫や ひと思いし

手の甲できえてはともる淡き螢火

盆近し今年も逝きし友のたむけに

大阪道頓堀の夏芝居見物へ。心斎橋筋、道頓堀は人人であふれていました。その殆どが海外からの観光客。いつもは楽に入れた「今井」にも外人客席の行列が出来ていてびっくり。
そんなインバウンド客を見越してか松竹座の看板もなんと英語版!!



「俊寛」の紹介は

Heike Nyogo no Sima (no じつて日本語?)

SHUNKAN

The Priest Shunkan frome.

The Heike and the Island ob Women.

{Genre:Historical play}

ジャンルは直訳だと歴史劇? 時代劇?

これ外人さん達に理解して貰えるのでしょうか?

歌壇.....

卒寿を過ぎて、急に体の衰えを感じるようになりました。忘れ物が増え、家の中でこぜりあいが始まります。もう先の見えた人生、おだやかに過ごしたいのですが.....

足立 美都子 (春日部市)

シルバーカー押してぼちぼちポストまで葉書

出すのも一仕事なり

痛む膝庇いて歩く三十分郵便局が遠のいて行く

「元氣ね」と言われる度に「膝がね」とぐちる自分がなさけない

梅雨空の待ち受け画面は満開のバラ園の花氣持ちやわらぐ

こんもりと茂る空家の庭先にからすうり二つ明かりのごとく

※

四年ぶりに旧葛野中学校昭和二十五年三月卒業生の同窓会(学年会)が行われました。卒業写真には七十一名が写っています。当日出席者は十四名。よく集まったほうですかね。

坂上 勝朗 (板橋区)

コロナ去り四年ぶりの同級会クラスこれが最後と口々に言ふ

宿題を言ひ訳にして代掻きをのがれしことの後ろめたさよ

石焼けて川原まぶしく光るときすつぽんぽんの男児おのこちまこ女児むすめ

一面の島となりし我が生家七十年の時は刹那に

※

ひとりぼつちは実に淋しいものです。

荻野 哲男（狭山市）

満月が何とも言えぬ色をしてピルの間に冷え冷えと浮く

妻逝きて一人暮らしのわびしさを台所に立ち

つくづく想う

亡き妻が植えしピワの木実が熟れし今年も庭が明るく見える

※

この六十年以上も経ったボロ家で一人終ることが望みだった私ですが、中島医院のケアチームの皆さん方、ヘルパーさん、息子一家、妹たち皆に守られて今まで生きております。姉も丹波から会

いに来てくれました。「人は皆一人では生きて行けないものだから」と言う歌をしみじみ思います。

木呂子 恵美子（清瀬市）

守られて夏まで歩みしこの身なれど終りの時

の近づくを知る

昭和二十年八月九日頃、ロシアが突然参戦して

攻め入つて来た頃です。ハルピンの祖父の家の塀におでこをくつつけて、前の通りを通る戦車を見ていました。玄関から二十米先の塀で、これから

起こる恐いことなど知らなかつたのでした。

長らえてテレビでウクライナの惨状を見ることが

になりました。また再び、と恐怖を感じますが、今年中学二年生になった孫娘が弾いてくれるピアノに癒されるのは、無上の幸せです。

十三の孫弾くトルコ行進曲ハルピンで母が弾

いていた曲

※

年々ふる里は遠く感じられますが、自然の営みには、いつも近くで季節毎に接することが出来、

そんな出会いなどをメモのように気軽に歌に詠んでいきます。

山本 述子（さいたま市）

澄む池に松葉も混ざる枯葉浮き鴨も模様の一部となりぬ
（神社境内）

初雪のあたり一面覆ひるてメルヘンチックな街となりたり

川代や鐘ヶ坂の花久し今の桜は佐治川沿ひと夏木立風もさやかな公園に友と巡りて話はつきず

天の川伊予の小紋に笹の舞紫水晶由布残雪と
（山紫陽花展）

※

コロナが五類になり、ほぼ日常が戻ってまいりました。こんなにあわただしかったのかと追われる日々です。それにつけても、終りの見えないウクライナの戦況に心が痛みます。

田中 一美（八王子市）

新緑の何処にコロナ消えたるか五類とされて戻る日常

今となれば誰も何にも気がねなく引きこもれた日々のなつかしき

コロナ禍でありたればこそ観た映画『スターウォーズ』シリーズ全編

ウクライナの守りたきもの分かれどもされど犠牲の何とすさまじ

長らえば思いやることうすらぎぬウクライナの惨禍変りはなきに

※

令和四年九月、九歳上の長兄が身罷りました。幼い頃の九歳差は大きかったです、長じてから、殊更近年は、姉に係る話し相手になつてくれました。八月お盆の電話で元気な声を聞いて僅か三週間も経ぬ訃報。今、節にもう少し相談相手になつて欲しかった、と偲んでいます。

原谷 洋美（杉並区）

硝子戸を晩夏のひかりは透きとほり秋の野の
実の爆ぜゆく声す

あ、あつくくん？明るき我の呼びかけに父の死
伝ふる穩しき声に

唐突に驟雨きたりぬ兄の死を伝ふ声もてタサ
りつ方

鈴廣のしそ巻きかまぼこありがたう声とつと
つと耳朶に旨かり

八十を過ぎればもらふだけにする耳を遊べる
声柔らかし

順番と言へば私と年子なる次兄あにの閑かな声に
寄りをり



「ご寄稿のお願い」

「峠見ゆ十一月のむなしさに」

丹波から但馬への国境の峠道・遠坂峠
を見遣った細見綾子の代表句。

交通網やIT手段の発達で、瞬時に峠
を越えられる現代においても、誰にも心
の峠はあるうかとおもいます。

皆様の峠越えを、ぜひ教えて下さい。

会費振込用紙の通信欄でも、総会返信
葉書の余白にでも、もちろん編集部宛で
も大歓迎です。

丹波の底力が漲る文芸欄になりますよ
うに、投稿をお待ちしております。

(山ざる編集部)

My Gallery

井上 巖さん（氷上町出身）



コロナ禍で旅行は多くの制約を受ける中、隙を見つけて出かけました。

左・早春の伊豆下田の爪木崎水仙園。海の色がきれいで、水仙とアロエの花が満開でしたが、人影はほとんど見られませんでした。

下・那須高原。山の上は紅葉も終わりに近く、木々が秋の陽ざしを受けて、透明で爽やかな空気を感じました。ここの人影はなく閑散としていました。



アスレチックジムを退会し、近所の親水公園のウォーキングが日課となりました。

上・公園の川には多くのカルガモが住んでおり、餌をやるのを楽しむ人も。5～6月には多くの雛が孵り、かわいい仕草でコロナによる閉塞感を癒してくれました。

右・みんなマスクをつけて、行き交うときはお互いにちょっと脇によけて歩いていました。でも周囲の自然は、きちんと季節感を味あわせてくれました。



My Gallery

山本喜則さん（市島町出身）



泉自然公園（千葉市）



樹氷の中を蔵王山頂から滑降（山形県）

趣味は温泉・城跡巡り、
山登り、スキー等で春夏秋冬マイカーにて各地を訪れておりますが、
今も印象に残る絶景映像の一部です。

簡単レシピ

クスクスのさわやかサラダ

石橋順子さん（市島町出身）

クスクスの発祥の地は北アフリカですが、フランスなどでも良く食べられます。

用意するもの（4人分）

1. クスクス1カップ（200cc）
 2. トマト中～大1個
 3. キュウリ1本、玉ねぎ4分の1
 4. セロリ細め1本、
 5. 赤パプリカ4分の1
 6. レモン汁半分～1個
 7. オリーブオイル大さじ3
 8. 塩、コショウ、熱湯1カップ強
- *飾り用にミント、バジル、パセリなどの葉やミニトマト（これらはなくてもよい）



主な材料



材料をみじん切りに

作り方

- ①クスクス1カップをボールに入れ、熱湯1カップ強を注ぎよくかき混ぜ蓋をして蒸らす。時々かき混ぜる。
- ②トマトは種の部分を取り除く。トマトを含め野菜をすべて細かくみじん切り。
- ③クスクスが冷めたらすべての野菜を入れ混ぜ、塩、コショウで味を整える。
- ④オリーブオイル、レモン汁を加えて混ぜる。レモン汁は好みで分量を調節する。

セロリが苦手な方も出来上がりはセロリの触感だけが残りにおいし消費します。残ったサラダは次の日もおいしく食べられます。



出来上がり

簡単レシピ

サラダチキン

鈴木明美さん（市島町出身）

高タンパク、低カロリーの鶏むね肉！！熱を加えるとパサパサになってしまいますが、簡単に、しっとりジューシーに仕上げる方法をご紹介します。

用意するもの

1. 鶏むね肉、塩、水、酒
2. 生姜（薄切り）
3. ネギの青い所
4. 鍋（あれば厚手のもの）

作り方

- ①皮を取り、むね肉の厚みのある所に包丁を入れ、むね肉全体に塩をして室温で15～30分置きます。
- ②鍋にむね肉がしっかり浸かる量の水と酒、ネギ、生姜を入れ沸騰させます。水の量は鍋の大きさによって適宜加減してください。この時は水600 mlに酒大さじ2。
- ③沸騰したら、むね肉をいれて1分煮ます。火を消し蓋をしてそのまま1時間以上置き、余熱で火を通します。熱が逃げるので、途中で蓋を開けない様に！！
- ④ポイントは、むね肉を室温に戻す事と途中で蓋を開けない事です。
- ⑤棒棒鶏、麺類にトッピング、食べるラー油とマヨネーズで和えてつまみに！

隙間無くラップして冷蔵庫で3～4日はもちます。様々な食方で召し上がって下さい。



（例；モッツアレラチーズ、トマト、むね肉）

丹波を撮る

文：徳田八郎衛、写真協力：西垣哲

(1) 統廃合で消える和田中学校校舎



昭和22年、和田村立和田中学校創立（和田小学校敷地内に併設）。同27年独立校舎竣工。同32年、町村合併に伴い山南町立に改称。

同59年、新校舎竣工。平成16年、6町合併に伴い丹波市立に改称。

令和5年、山南中学校との統合で76年の歴史を閉じた。

←昭和47年10月25日、空中撮影。



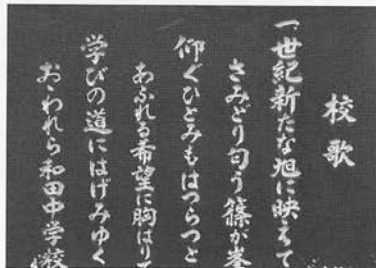
昭和30年の町村合併に伴い、旧村名を冠した生郷中学校、神楽中学校等が次々と統廃合された後も、和田地区だけが1小学校・1中学校体制を維持してきたが、過疎化に抗することは出来なかった。最後の卒業生は33名であり、昭和40年代の200名とは桁違いである。

←同48年撮影の同校玄関。

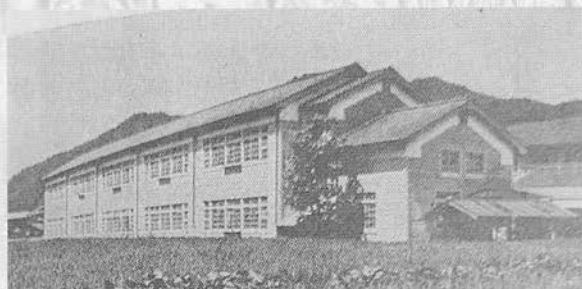


←昭和59年竣工の新校舎（丹波市教育委員会提供）

↓昭和32年制定の校歌

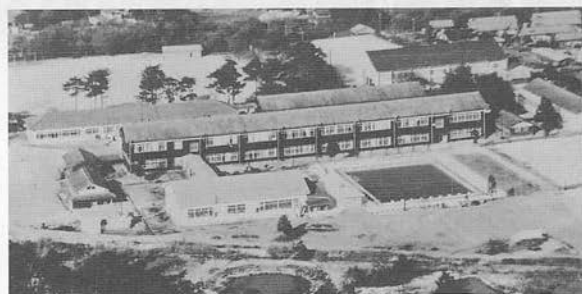


(2)山南中学校校舎の変遷



昭和22年4月、久下村・小川村組合立の山南中学校創立。久下小学校内に本校、小川小学校内に分校を設置。早くも23年4月に校舎竣工。

←上久下村立上久下中学校も同年4月に校舎竣工



昭和30年4月、山南中学校講堂兼体育館竣工。同33年4月、上久下中学校を統合。以後、音楽室、美術室、技術科教室棟等の整備が進む。

←昭和40年代の校舎全景。裏山を開墾し、桃、栗、柿を栽培した。



←昭和50年4月、新校舎竣工。登校路の桜並木は、すべての卒業生の想い出となっている。



←令和5年4月、和田中学校を統合した新・山南中学校校舎が竣工した。

→懐かしの登校路



丹波を撮る

文・写真：徳田八郎衛、撮影協力：和久靖之、史料協力：吉良朋浩

(3)鴨庄小学校の閉校



←明治7年、喜多村、岩戸村、牧村、上村、奥村、戸平村の六ヶ村組合立上村学校として創立された鴨庄小学校。明治22年に鴨庄村発足の際は一教室を役場庁舎に提供している。鴨庄村立を経て昭和30年に市島町立、平成16年に丹波市立となり、令和5年3月、市島小学校との統合により148年の歴史を閉じたが、最後の卒業生は3名であった。



大正15年竣工の木造2階建て本館校舎は、昭和43年に鉄筋3階建てに更新された。さらに昭和40年代後半にはプラネタリウムが設置される。小学校に本格的なプラネタリウムとは、当時では珍しいが、一度しか見たことがないと嘆く卒業生も居る。



←風雪に耐えてきた二宮尊徳像。昭和16年に金属不足を補うため応徴（徴募に応じること）した後、寄贈による石像が建立されて現在に至っている。「昭和9年7月荻野要建立」という石碑も残るが、最初の像の記録であろうか。
↓校庭の側を流れる鴨庄川は、良き自然教室であった。



(4) 絵画で見る丹波市の山々①



丹波最高峰
青垣栗鹿山
962.5m
六甲山より30m高し

青垣栗鹿山より
(K. M. U.)

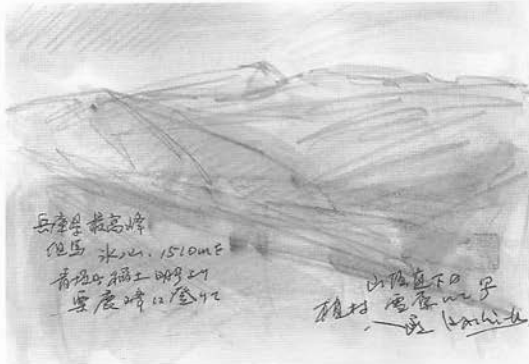
←青垣町佐治・岩屋山より望む丹波市最高峰栗鹿峰（962m）。六甲山より30m高いのである。但し山頂は丹波市内ではなく但馬の養父市との境界線上にある。地元での読みは戦前からアワガミネだが、栗鹿山と記す文書も多い。



北播磨
千が峰中腹の
1000m (岩屋山) 栗鹿山
962.5m E

植村八郎
(K. M. U.)

←北播磨・千が峰中腹のススキの原より望む栗鹿峰。青垣町稲土から登る人が多い。



兵庫最高峰
但馬 氷山 1510m E
青垣の福工 明子と
栗鹿峰に登り

山陰道下口
植村八郎
(K. M. U.)

←栗鹿山より望む兵庫県最高峰、氷ノ山（1510m）。山の向こう側は因幡（鳥取県）である。

植村八郎氏画歴：昭和9年2月21日生れ。1952年柏原高校卒。元兵庫県教員。丹波市青垣町佐治在住。1968年豊岡市美術展市長賞（以後招待作家）。日本アンデパンダン展（日本美術会会員推挙）。1972年福知山市美術展賞（以後囑託作家）。1989年全国公募春日水彩画展優秀

賞。1983・1989・2011年福知山市展委囑作家賞（3回）など。2007年柏原高校110周年記念寄贈「はらから」油彩F100・同窓会館収蔵

丹波を撮る

文：徳田八郎衛、絵画提供：植村八郎

(5) 絵画で見る丹波市の山々②



←氷上町犬岡の四季彩館より望む丹波・但馬・播磨の国境、三国岳（855m）。山頂から丹波方面を展望できる。青垣町大名草と播磨の杉原谷を結ぶ播州トンネルの上部でもある。



←山南町和田若林集落より望む同町和田地区の蛇（オロチ）山頂（358m）、岩屋城址。戦国時代の山城と明智勢の攻撃による落城後に城主となった佐野氏が改修した近世的な城郭様式とが混在する城郭跡として注目を浴び、県指定文化財となった。



←柏原町・丹波の森公苑側の山頂より望む篠が峰（827m）と竜ヶ岳（816m）。いずれも丹波市氷上町と多可郡多可町加美区との境界である。氷上町側からのアクセスは長いが、多可町側は比較的、人家に近いので山林の伐採も行われ、登頂すると播磨側への見晴らしは素晴らしい。



←氷上町稲畑の佐治川河畔より望む氷上町弘浪山（502m）を望む。黒田登山口と柿柴登山口があり、四等三角点の埋まる山頂からの眺望は良い。

丹波を撮る

文：徳田八郎衛、絵画提供：植村八郎

(6) 絵画で見る丹波市の山々③



←青垣町西芦田の「丹波少年自然の家」より望む芦田地区の竜王山(568m)と桜並木。



←青垣町中佐治より望む遠坂地区の丸いドーム状の万歳山(420m)。「東にそそる万歳山」と遠坂小・中学校校歌で歌われた名山である。



←春日町黒井より望む春日町、保月城址(356m)。猪口山全体を要塞化したこの城の構えは、戦国期山城の典型として評価され、平成元年に国指定文化財となった。



←氷上町北由良より望む加古川水系・由良川水系分水嶺の愛宕山(570m)。山頂の岩場より京都の愛宕山が遠望でき、遥拝所や石燈籠がある。篠ヶ峰、弘浪山、高見城山など西方、南方の山々だけでなく東方の京都府の山々まで贅沢に展望できる。

世界でも類を見ない丹波の過酷レース

エベレスト2個分の累積標高という過酷なレースの「タンバ100アドベンチャートレイル」。丹波の森公苑が発着点。143キロのレースで出走62人中(完走17人)。青垣町出身の足立伸一さん(47) Ⅱ大阪市Ⅱが38時間52分で8位に入賞。

「練習で幻聴が聞こえるくらい追い込むので、全然きつくなかった」とあっさとり口にするから凄い。でも「3日間で10回ほど転んだ」とも口にする。凄いなあ。

トタンバ、ササヤマ、ヤマカギのキツネ あ、ヨイヨイ

丹波市山南町の藤本正美さん(95)宅にはキツネが訪れる。自宅の前で昼寝したり気持ち良さげに目をつむったり、あくびをしたり…。一匹だけ来たり、家族3匹で現れたり。

丹波でキツネというと、春日町

黒井の靴を盗むキツネが有名だ。しかし山南町でもキツネが出る。となると、こりゃ、丹波はサルだけではなく、キツネの里とも言えるのではないか。

氷上高校またもや春高バレーに出場

氷上高校が県予選を制し、4年連続、38回目の出場権を得た。飛び抜けた選手はいないが、守備から攻撃につなげるのが得意技。チームマネージャーは青垣出身の足立彩奈さん。唯一の丹波市出身者。「選手にはやり切ったと思えるようなプレーをしてほしい」と話している。

ご存知か? ちよつとした柏原のミステリ

柏原高校そばにある柏原藩陣屋跡には柏原八幡宮とつながる抜け穴があるとの噂。この噂は柏原の幅広い世代で語り継がれており、今でも証言をする人は何人も現存する。

以前、人気テレビ番組「探偵!

ナイトスクープ」が、特別な許可を得て、抜け穴があるかを調査したことがあったそうだが、この時には確認されなかった。今は、国史跡のために立ち入ることはできない。ますますミステリ!

みんなでも応援しよう! 丹波ゆかりの2つの映画

丹波市出身のワタナベエンターテインメント所属の俳優、荒木宏文さん(39)が、今年公開の主演映画「ヒットマン・ロイヤル」に出演。荒木さんは、映画「アシンメトリー」、「漆黒天 終の語り」などで主演を務め、「東京リベンジャーズ2、血のハロウィン編」や、漫画やアニメを原作の舞台・ミュージカルの人気俳優でもある。今夏はギリシヤ悲劇「オイディプス王」にも出演した。

もうひとつは「銀幕の詩」。丹波の成松が舞台。突如現れた暴力団を追い払い、その跡地に映画館を建てるというストーリー。

『銀幕の詩』は、『下町の詩』『恐

童の詩』に続くシリーズ第3作目。丹波の懐かしい風景が随所に出てくるのでぜひ多くの丹波出身者に見て欲しい。

みんなでも応援しよう! 丹波出身の2名のプロ選手

一人は読売巨人軍の大勢選手。本名翁田大勢(23)。中学時代は丹波市の中学硬式野球チーム「氷上ボーイズ」に所属していた。その後、西脇工業高、関西国際大を経て、2021年のドラフト会議で巨人から一位指名を受け入団。昨シーズンは新人歴代最多タイの37セーブでセ・リーグ新人王に輝いた。また、今年の春先のWBCでも活躍したのはみなさんの御存知の通り。巨人では守護神として大活躍中だ。

もうひとつは千葉ロッテマリーンズの中森俊介投手(20)。兵庫県丹波篠山市出身で、3年目で初めて開幕一軍のメンバー入りを果たした。いずれ千葉ロッテのエースとして期待される。



撮影：徳田八郎衛 犬岡橋から下流を見る

おお我ら和田中学校

瀬川 真由美（丹波市山南町）



丹波市立和田中学校は令和5年3月末をもって閉校しました。閉校が決まると、地域コミュニティの中心である「ふるさと和田振興会」は和田中学校閉校記念事業実行委員会を立ち上げ、閉校記念誌作成と閉校当日のイベントの二つについて考えました。私はふるさと和田振興会に勤務しており、この委員会の委員でもありましたので閉校について書かせていただきます。

閉校記念誌には学校の歴史、教職員や卒業生からの寄稿文、卒業生約6700名全員の写真と名簿を載せることにしました。中学校に保管されている卒業アルバムを借り、欠落している年度は探して揃え、何度も何度もアルバムを繰って作業をしました。表紙は地元倉本測量さんに和田中学校の遠景の写真を撮っても



和田中学校の全景（1998年1月）。いずれのイラストも瀬川真由美さんの父で元教師の瀬川浩さん（故人）が描かれた。

らいました。記念誌の題名は、私が提案した校歌の1節「おお我ら和田中学校」に決定し、題字は地元の家大地正康さんに書いていただきました。

こうして出来上がった閉校記念誌は4月に全戸配布され、和田地区の皆さまにとっても喜んでもらいました。家族で親子3代の写真を確認したという声も聞きましたし、記念誌を持ってあちこちでミニ同窓会をしているという話も聞きました。

一方、イベントは3月25日に和田中学校体育館に於いて閉校記念式典が行われました。式典の後は76年間の歴史を振り返るスライドショーや岩尾城太鼓、卒業生の歌唱などがあり、最後は全員で校歌を歌いました。現役の中学生やごく一部の来賓を除いては特に案内することも無く、閉校式についてのチラシを配布しただ

けでした。もしかしたら参加者は少ないかもしれないと心配しましたが、会場の体育館には校歌を歌いながら泣いている人、2階にいる同級生らしき人たちと楽し気に言葉を交わすグループ、若い親子連れ、中年の夫婦、第1回生ではないかと思われるお年寄りなどごった返しました。最後に外へ出て250個の風船飛ばしをしました。そんな数ではとても足りないくらいの方が集まりました。

閉校式典の席上、ふるさと和田振興会の有田豊会長（当時）は次のように挨拶されました。

「閉校については統合問題なくして語れないと思います。平成24年から約10年の協議を経てようやく統合が実現しました。その間、準備委員をはじめ多くの皆様の長期に亘る取り組みに敬意を表します。また、永年、見守っていただいた地域の皆様へ感謝申し上げます。この中学校統合に関しましては様々な考え方やご意見があることは承知しております。林市長、片山教育長にそのことを承知していただき、今後の教育行政に活かしていただきたいと思います。新しい中学校もできました。子どもたちのためにも前へ進みたいと



和田中学校の正門近く（1998年1月）

思います」

この挨拶にもあるように、町内に山南中学校と和田中学校の2校を持つ山南町は10年も前から統合について話し合ってきました。統合については主に和田地区が反対しているように感じられていた方も多いと思いま

す。もし和田地区が反対する理由があるとすると、統合か否かではなく、新中学校の位置にありました。南北に短く東西に長い地形を考えると、新たに中学校を建設するのであれば、町の中央にあたる小川地区にすべきだという思いです。その思いは、新中学校の立地を久下地区の谷川ありきの如く提案されたことに対する疑問や、住民説明会でスクールバスを確保しておきながら反故にされた事による反発などで余計にくすぶったのでした。

和田中学校は県下でも珍しい「一小学校一中学校」でした。幼稚園も同じですから同じメンバーで10年間

近くを共に学びます。しかもこの体制は76年間も続いてきました。同級生は家族のような親しさの地区です。和田地区は古くから財産区を有しており、その財力は小中学校に惜しげもなくそがれました。氷上郡の中学校で一番早く学校給食を開始したのは昭和37年の事でした。中学校のプールも郡内初でした。昭和59年竣工の新校舎建築では多額の寄付金と、テニスコートや新プールの建設用地も寄贈しました。少しでも地区の子どものためになれば惜しくないと思つてきました。

和田中学校最後の校長先生となられた岸田孝広校長は、事務所に来られた時に「どの子も素直で真面目、それでいて明るい。勉強も熱心で学力はびかいち。本当にどこに出しても恥ずかしくない自慢の生徒たちです」と言ってくれました。岸田校長は新しく発足する山南中学校の初代校長とされます。

いよいよ和田中学校最後となった日の夕方、「今、閉めてきました。このまま真っ直ぐ家に帰る気がしなくて。事務所をみたら灯りが点いていたので寄りました」と、中学校の門を閉めた後にふるさと和田振興会



撮影・岡 吉明

の事務所に寄ってくださいました。その眼には光るものがありました。しばらくの雑談のうちに「では帰ります。いろいろお世話になりました」と帰って行かれる背中に、私は「さようなら」ではなく、「和田の子をお願いします。お元気で。行ってらっしゃい！」と声をかけました。76年間の和田中学校にも、新しい山南中学校にむけて「行ってらっしゃい」と送り出している気持ちでした。

(柏原高校・昭和48年卒)

丹波黒井城と直正

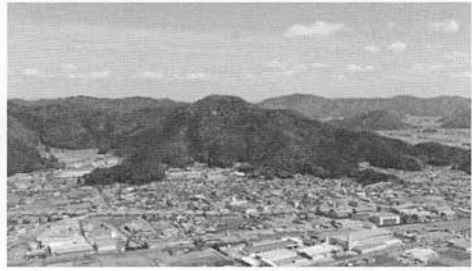
村上 正 樹 (丹波市春日町黒井)



舞鶴若狭道の春日ICから国道175号線を西に少し走ると、麓の街並みを抱き込むように、北背にそびえる標高356mの猪の口山とその山系に黒井城跡はある。地元では親しみを込めてこれを城山と呼んでいる。

元旦の早朝には、暗闇の中、御来光を求めて頂上を目指して登る人々の電燈の灯が、登山道に沿って点々と連なる様子を麓からも見ることができる。山頂の城跡では雲海から登る初日の出を拝み、誰彼となく賀詞を交わすのが慣例となっている。このように黒井城跡は周辺の人たちにとって、祖先から受け継いだ貴重な歴史遺産であるとともに一番身近で親しみやすい「里山」でもある。

丹波の国は、亀岡を中心とした口丹波、綾部・福知



山を中心とした中丹波、そして水上・多紀で成り立つ奥丹波の三つからなる。その奥丹波にある黒井城跡は、国指定史跡となっており、官報に告示された史跡指定書には次のように誌してある。「黒井城跡は、中世末期、奥丹波の盟主であった荻野（赤井）氏の居城跡である。標高356mの猪の口山を中心に広がり、

黒井城跡の三城跡である。これらの城跡はそれぞれ築かれた時代が違い、したがってその位置や場所、形態などは異なっている。この中で一番古いのが黒井城跡で、山の上に築かれた中世戦国時代の山城であり、戦鬨本位の「戦いの城」である。篠山城跡は動乱が治まって近世に入った慶長14年、小高い丘の上に造られた平山城で、どちらかといえば戦いの為というよりも、城主の威厳を誇示する「権威の象徴の城」という性格を持つ。また、柏原藩陣屋跡は平和な江戸時代、町の平地に造られた平地に造られた平城の部類に入り、戦いの為の備えはほとんどない「政務を見るための城」といえる。

山頂の曲輪群は堅固な石垣に護られ、三方に伸びる山稜上に城砦群を配し、全山を要塞化している。永禄から天正期の城郭遺構が、その後の改変が加わることなく、良好に残されており、織豊期の天下統一過程を示す城として貴重であり、史跡にしてその保存を図ろうとするものである。」

奥丹波は、城密度が高く、水上・多紀合わせて約1

20余りの城跡があるが、それらの中で国の史跡に指定されているのは、篠山城跡、柏原藩陣屋跡、そして

世の中が戦国動乱から、天下統一、平和な江戸時代と変わっていくにしたがって、城も山上から丘へ、そして平地へと場所を移し、その形と性格を変えていく。奥丹波のこの三つの城跡は、それぞれの時代の代表格であり、奥丹波地域の城の変革を探る上で、まことに貴重な存在である。

黒井城主・荻野悪右衛門直正。水上町新郷、後屋城主・赤井時家の二男に生まれ、幼名・才丸。長ずるに



およんで、請われて朝日荻野十八人衆の盟主となって、荻野姓を名乗り直正と称した。時の黒井城主で叔父の荻野伊代守秋清を殺して城主となり、自ら悪右衛門を名乗り、動乱の戦国時代を生き抜き、天正六年五十歳で没する。

その活躍ぶりは、甲斐の戦国大名・武田家の戦略、戦術を記した軍学書である「甲陽軍艦」に、元龜、天正の戦国動乱を彩った「名高キ武士」として徳川家康や長曾我部元親らと共に、丹波の赤井悪右衛門として

その名が挙げられていることは注目に値するし、そこに全国に名を知られた器の大きい戦国の名将としての人間像を見出すことができる。甲斐の国・武田家とは反織田信長勢力の同士として、書状や家臣の往来があり、また、高野山にある直正の墓に接して、すぐ横に武田家の墓地があり、信玄・勝頼が眠っていること

から、両者の深い繋がりが想像される。

直正の妻は、関白近衛前久の息女か妹と言われている。「大日本史料」には、「永禄十一年（1568）十一月、関白近衛前久出奔子信尹家督を嗣ぐ……天正三年（1575）三月、島津義久その臣、喜入李久を丹波に遣し、近衛前久を護衛せしむ……天正三年六月、近衛前久、丹波より帰京す」とある。前久は時の將軍足利義昭と不仲になり、京を出奔して、直正を頼って奥丹波に入り、庇護を受けながら、黒井城下で数年間暮らした。前久の子息信尹は「寛永の三筆」と称された書道だけに留まらず、禅や和歌、絵画にも優れた文人であった。下館跡にある興禅寺には、前久が京の都を懐かしみ造らせたと伝わる庭（*1）が現存する。この庭を眺めながら、戦国の世のしばし平穏を直正夫妻と共に、雅楽や能、茶道等にいそしみ、世の安寧を祈ったのかもしれないと想像が膨らむ。

2018年10月、地元の有志らの集まりである黒井城跡地域活性化委員会が中心となって、その様子を再現しようといイベントを企画した。猪ノ口山々頂の黒井城跡本丸で能楽師大倉流小鼓方・上田敦史さん制作の

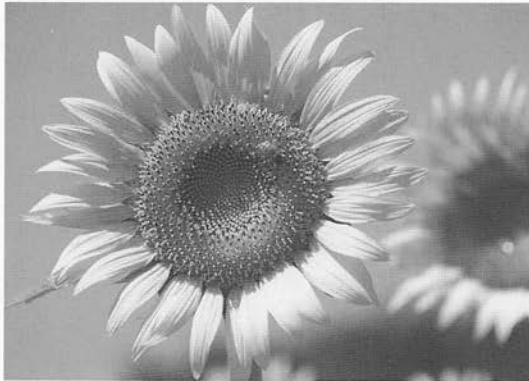
新作能「直正」が上田さんと観世流能楽師・林宗一郎さんらによって上演された。また同時に麓の下館跡の興禅寺では、京都雅楽塾・藤村正則さんらによる雅楽演奏や地元茶華道会による茶会も開かれ、テレビや新聞のニュースに取り上げられるなど話題となった。

2022年11月には荻野家、赤井家、近衛家ゆかりの春日町黒井兵主神社でこれも上田さん制作の新作能「貂の皮」や、茶会が盛大に催された。2024年度は1月に春日文化ホールで、同様の催しが開催される予定である。

この土地に由来する人物や歴史が、この土地の人たちの手によって形となり、新しい文化として生まれ、育ちだした。これが継続され、新たな伝統文化と成り、地域に根ざしていつて欲しいと願っている。

(*1) 近衛信尹との説もある。参考文献…青木俊夫執筆文、村上完二執筆文

(春日町出身、丹波市文化財保護審議委員)



撮影・岡 吉明

丹波ブランド紹介

その14「道の駅丹波おばあちゃんの里」

土産探しは「おば里」で
リニューアルで高まる存在感

古西 純

(丹波新聞社)

「おば里」の愛称で親しまれる「道の駅丹波おばあちゃんの里」(丹波市春日町七日市)が、昨年3月のリニューアルオープン以来、飛躍的に存在感を高めている。春日地域を中心とした旬の農産物をはじめ、市内の主なお土産が買えるようになり、丹波市、ひいては北近畿観光の窓口スポットとして知られるようになってきた。

おば里は、丹波市が2006年(平成18)に開設し、17年目。リニューアルでどのように変わったのか、紹

介したい。



リニューアルした「道の駅丹波おばあちゃんの里」

「ちいき百貨店」

リニューアルでは、「ちいき百貨店」の看板を掲げ、



お盆の帰省客でにぎわう店内

市内の主なお土産用の加工食品がそろう場所を目指した。以前はパンなどの自社製造品とレストランに力を入れていたが、方針を大きく転換。自社製造の比率を下げ、市内の物産品の販売を強化し、「ここ

へ来れば市内の主な商品が手に取って見られる」店づくりへとかじを切った。

売り場面積は約2倍になり、取引先も95社から110社に増えた。市商工会が会員の新商品を紹介する「MIKKE! TAMBA (みつけ! たんば)」のコーナーも作り、市内の業者が売り上げを伸ばしやすい陳列を工夫している。

人気の黒豆おかき

「一番人気の商品は、実は自社製品の『丹波黒豆おかき』です」と、広報の早形敏樹さん。リニューアルに合わせて開発した、初の自社商品だ。大きさがふぞろいだったり、表面にしわがあつたりと、味はおいしいのに見た目で商品からはじかれる黒豆を買い上げ、



人気の自社製品「黒豆おかき」を手にする広報の早形さん



丹波乳業のミルクを使ったジェラート

市内産のもち米を使った「おかき」に加工することで、農家の助けにもなればとの思いが込められている。製造は「うぐいすボール」で知られる加古川市の植垣米菓に依頼している。

「同じく、スイートコーンの廃棄を減らす『うまい棒』のオリジナル商品も開発中とのこと。こうした「農家を元気にする」取り組みは、今後も力を入れていきたいという。

ちなみに、おば里オリジナル商品で、記者のおすすめは、丹波乳業のミルクを使った「ジェラート」。季節に応じていろいろな種類があり、さっぱりとした甘さで、コーヒーとの相性もぴったりだと思う。

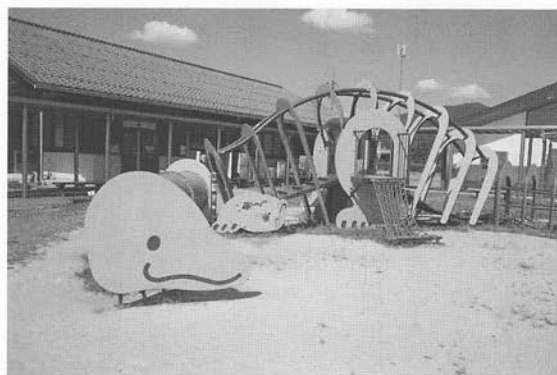
恐竜遊具や親子トイレ

子育て支援拠点施設として、芝生公園に新しい遊具も設置された。春日町の七日市遺跡にも関連があるナウマンゾウをモチーフにした滑り台と、丹波市の恐竜化石にちなんだ恐竜の滑り台だ。

また、公園の一角には、子ども用の小さなトイレを設置した親子トイレや、おむつの自動販売機も置かれている。

売り上げ大躍進

リニューアル後の実績は、数字にはつきりと表れて



恐竜をモチーフにした滑り台

いる。これまで年間3億円台で推移していた売り上げは6億円に迫り、大幅な伸びを記録。農産物を出荷する生産者部会の売り上げは、コロナ禍前の2018年度（令和元）が9500万円だったのに対し、22年度（令和4）は1億5000万円と約1.6倍になった。買い物客は約40万人で、市外からが多いそうだ。舞鶴若狭自動車道・北近畿豊岡自動車道の春日ICそば

にあり、お盆の帰省などで立ち寄られた読者の方も多いのではないだろうか。

野原正章・道の駅丹波おばあちゃんのリ支配人（53）は、「昨年度は想定を上回る大躍進を遂げ、買い手、売り手、世間、働き手の全てが良

い、『四方良し』の年になった」と振り返る。

キーマンは支配人

おば里の再整備計画を描き、リードしてきたのが、現支配人の野原さんだ。

2018年に国土交通省の「重点」道の駅に選定されたことを受け、運営会社である丹波ふるさと振興会社の柳川拓三社長、当時の谷口進丹波市長が、朝来市の道の駅「但馬のまほろば」で10年間、支配人を務めていた野原さんを「スカウト」。野原さんは民間初登用の丹波市観光推進専門員として採用され、リニューアルに向けた基本計画づくりに携わった。2年後の2020年4月、支配人に着任し、描いた構想を形にしていくことになる。

働き方改革も

野原さんが売り上げ増と並んで力を入れたのが、従業員の「働き方改革」だ。

以前は、パンの製造のため早朝から従業員が出勤していたが、これらをアウトソーシングに切り替えるなどし、「仕事内容に勤務時間を合わせるのではなく、勤務時間に仕事内容を合わせる」見直しを行ったという。こうした取り組みは、「ひょうごご仕事と生活センター」にも注目されているようだ。

2025年に向けて

野原支配人が次の目標年に挙げるのが「2025年」。大阪・関西万博の年だ。道の駅の全国大会が丹波市で開催されることになっており、「丹波市が道の駅から注目される絶好の機会」と考えている。「丹波、但馬、ひいては丹後との結節点に位置する道の駅。地域の連携を進めることで、お客さんほもつと増やせる。2025年に向かって、着実にロードマップを進んでいきたい」。おば里の成長はまだまだ続きそうだ。



野原正章支配人

丹波越え「おさん茂兵衛」考

萩野祐一

(丹波新聞社会長)

340年前の天和3年(1683)9月22日、京の大経師家の妻、おさんと手代の茂兵衛が、京の町を引き回しの上、磔に処せられた。大経師は、暦の版行・販売権を握り、巨利を得ていた商家だった。朝廷や幕府にも深く結びついていた商家の妻が、手代の男と道ならぬ恋に落ち、駆け落ちした末に捕らわれ、磔に処せられるというショッキングな事件は、京の町を揺るがしただけでなく、事件から3年後、井原西鶴が著わした『好色五人女』の巻三「中段に見る暦屋物語」に取り上げられ、二人の三十三回忌に当たる年には近松門左衛門が『大経師昔暦』を發表した。江戸時代を代表する二人の大家がそれぞれの作品の題材とした。

茂兵衛は、春日町山田(船城小学校区)の生まれ

であり、柏原町下町沖田には、京から逃げてきた二人が捕らわれた所とされる「おさんの森」がある。さらには、かつては駆け落ちのことを「丹波越え」と言った。丹波の歴史の一断面であるこの「おさん茂兵衛事件」を西鶴と近松はどのように描いたのかを、当時の倫理観をからませながら見てみたい。

「町人階級の女を代表する英雄」

まずは『好色五人女』の「暦屋物語」のあらすじを紙幅の都合もあり、ごく簡単に紹介する。西鶴は、「茂兵衛」とはせずに「茂右衛門」としていることを断っておく。

—茂右衛門に思いを寄せていた大経師の女中になりかわって、おさんが茂右衛門への恋文を書いてやる。女中が無筆だったためだ。たわむれに書いた恋文が発端となり、二人は「不慮の事故」とも言えるような形で肌を合わせる。このような始末をしでかした上は、茂右衛門を「死出の旅の道づれ」にすると覚悟を決めたおさんに茂右衛門は必ずと引き込まれ、愛欲に沈む。京を離れた二人は、琵琶湖で身投げし心

が「湖に身を投げ、長くあの世で添い遂げましょう」と茂右衛門を誘う。それに対して茂右衛門が「書き置きを残して身投げをしたと見せかけ、遠い田舎に逃げましょう」と返すと、おさんは「実を言うと、私もそのつもりだったので、鉄箱に五百両入れてきました」と答える。国文学者の暉峻康隆氏によると、五百両は今のお金に換算すると、約2400万円だという。ほんのいつときでも生き延びられればいいという金額ではない。どこまでも生き永らえたいと願う生への執着心があらわれた金額である。

永井氏は「不義を犯したものは死刑とわかっていながら、彼女はたくましくその封建道徳に抵抗しているのだ。―私たちはもうだめだ。死ぬよりほかはない―」と思いきりあきらめてしまうのは、一種の敗北であるが、彼女はそう簡単に降参しないのだ。とことんまで生きて、自分たちの生命と性をたのしもうとして「書いてある」と書いている。

不義密通は「男女共に死罪」

『好色五人女』を理解するため、当時の法令や道

徳について触れたい。

近世の法令は、おさんと茂右衛門のような主人の妻と雇人の密通に関していずれも死罪であることを明記していた。前出の暉峻氏によると、「元禄御法式」には「主人の女房 師匠の妻と密通仕る者の類 男女共に死罪」とあるという。封建道徳が罰するものは、不義密通にとどまることはなかった。結婚は主人や親の一存で決まるとというのが当時のしきたりで、自分で勝手に相手を選ぶと、武家社会では手討ち、町人社会では勘当という制裁が用意されていた。男女の自由な恋愛は、身分制度や家族制度を破壊するものと考えられ、厳重に禁じられていた。

ただ、西鶴が『好色五人女』を書いた頃は、商業資本主義が一齐に活動を開始し、全盛期を迎えつつあった。このため、当時の町人社会は、外からの規制において屈しないだけのエネルギーを残していた。しかし、西鶴の「おさん」以降は、封建的な締めつけが厳しくなり、おさんのような抵抗は見られなくなった。「江戸時代の歴史を見てみると、このおさんのたくましさはつかの間のものだった」と

永井氏は書いてある。だからこそ、西鶴の「おさん」は、「町人階級の女を代表する英雄」であり得た。

西鶴、近松の「おさん」像の相違

次に近松の『大経師昔暦』を見たい。紙幅の都合であらずしは割愛させていただく。

『大経師昔暦』でも、二人の始まりは「不慮の事故」のような形だが、『好色五人女』とは決定的に違う点がある。おさんと茂兵衛との間に恋愛感情が見られないのだ。たとえば、大経師を飛び出した後、おさんはたまたま両親と出会うのだが、そのとき、おさんは母親に「二人に不義の過ちは、これっぽっちもないけれど、因果の巡り合わせで、言い訳が立たないことになった」と話す。つまり真の不義ではないというのだ。さらには、丹波に逃げ、身を潜めている場面で、おさんに対して茂兵衛が「私のために大事なお身を捨てさせました」と詫げるのに対して、「それはお互いの因果のため。ただ忘れられないのは二人の親、そしていとしいのは幼馴染の以春様」と返す。以春とは、おさんの夫のこと。駆け落ちを

しても、夫のことを思い、慕い続けているのだ。

『大経師物語』に見られるおさん茂兵衛の関係について、「水平的で強い連帯」があつたとする研究者がいる。ほかに、近松が積極的に意図したものではないにせよ、恋愛感情のない二人が天下の法に縛られて不自然な駆け落ちをせざるを得なかつたことを示すことで、天下の法の過酷さや矛盾をあぶり出すことになつたと指摘する研究者もいる。

さらに島崎藤村は、西鶴と近松の「おさん」には明らかな相違があると次のように書いている。「西鶴の女の背後に動揺した時代の影が見えると言へるなら、近松の女の背後には一種の『モオラル』が見えるとも言へよう。…西鶴の女がはなはだ移り気であるのに引きかへ、近松の女が飽くまで献身的であるのは注意すべきところかと思ふ」。うなずける言及である。

ステ女の心に突き刺さつたか

茂兵衛の生まれた春日町山田にある樹源寺の過去帳に、茂兵衛の戒名が記されているらしい。「離悪



尼僧として後半生を
生きた田ステ女の木像
(初代柏里作)

西入」という。悪を離れ、西方浄土に入ることを願った戒名であろう。過去帳には「天和三年九月廿二日」ともあるらしく、磔に処せられた年月日と同じであることから茂兵衛の戒名と見て間違いなからう。この天和3年は、丹波が輩出した俳人で尼僧の田ステ女にとっても人生の分岐点となった年だった。「雪の朝二の字二の字の下駄のあと」という句を6歳で作ったと言われ、俳人として知られるステ女だが、俳人として活躍したのは前半生のこと、夫の季成が亡くなったのをきっかけに後半生は世俗を捨て、尼僧として生きた。

天和元年（1681）、49歳の時に出家し、翌年、京に出た。そして天和3年、臨済宗の傑僧、盤珪禪師に初めて出会った。3年後、盤珪禪師の弟子となり、妙融から貞閑へと改名した。元禄元年（1688

8）、貞閑は姫路の綱干に庵を買い求め、盤珪禪師の寺の近くに住み

着いた。ステ女について詳しい俳人の坪内稔典氏は「確証はないが、貞閑は盤珪を恋人のように慕ったのではないか」としている。興味深いのは、ステ女がそんな盤珪禪師に初めて会ったのは、おさん茂兵衛事件があった天和3年の同じ年だったということだ。

京の町を揺るがしたこの事件を、京にいたステ女が知らない訳はない。ふるさとを同じくする男が密通を犯し、手を取って駆け落ちした女と共に丹波に逃げ、あぐく京に引き戻され、磔に処せられる。この事件をステ女はどのように受け止めたのだろうか。おさんの死にざまは、ステ女の心にどのような波紋を投げかけたのだろうか。ステ女が盤珪禪師を恋人のように慕ったのが事実であるとするならば、この事件と自分の恋に正直に生きたおさんという女性の存在は、ステ女の心に深く突き刺さったのではないか。そう考えても外的外れでないだろう。

おさんが命を落とした天和3年は、ステ女が生まれ変わった年でもあった。

山ざる研究

土蔵から出てきた丹波の歴史



1 古民家の後継者探し

徳田 八郎衛（浦安市）

元禄6年以来の代々の墓の関東移転も、明治20年頃に建った黒光りする古民家の後継者探しも、周囲からさんざん脅されたほどの難行ではなく、すんなりと片付いた。感謝の毎日である。菩提寺との別れも、最初は「寂しゅうございます。関東へも柵経に回っています。葬儀の際も駆けつけますので」と「遠隔檀家」を続けるよう請われた和尚様も、「頻繁にお参りできない現状では、近所にもご迷惑。先祖にも不幸。孫たちが仏事や先祖に触れる機会が少ないままでは仏教の衰退につながります」という正攻法をお願いを、口頭でなく文書でお届けする

と、すんなり受理して下さった。

「時代の流れ」と達観しておられた節もあるが、我が家が他宗派の寺へ走るのではなく、同じ曹洞宗の大本山、鶴見の總持寺の檀家となることや、その墓苑には芦田均、井上秀、大西瀧治郎等の著名な丹波出身者の墓が少なくないことにも助けられたと思っている。

墓の移転に比べると、やや難航したのが古民家の継承だ。「元庄屋敷」をキャッチフレーズに地元の不動産屋さんが頑張ってくれたが、2年経っても住み手は見つからない。「老後を丹波で過ごそう、という老夫婦には3LKで十分。ここは広すぎて除草だけでも気絶します」と断言した都市部の不動産屋さんの助言は「全部ぶっ壊して建売7戸建てたら確実に売れます」だった。

それは困る。住居としてではなく、料亭への改造でもいいから、柏原の鶴姫様（第8代織田信敬公の未亡人）が遊びに来られた屋敷と庭園を護ってくれる人を探して奔走したら、白馬に跨った救世主（？）が枚方市からやってきた。小中高と12年間同期生だったT君だ。「退役不動産屋」であるが、モダンな感覚で広報や販売を行っている女性社長を紹介してくれた。彼女

は「奥丹波古民家探検隊」を結成し、10名前後の見学者に家屋だけでなく山林まで「探検」させる。

「奥丹波は困る。もう30年以上前から複線電化し、大阪駅へ普通列車でも1時間40分で行ける通勤圏なのに」と異議を唱えたが、「ア—ラ、今は奥飛騨、奥能登、奥丹後と、奥が付くと人気が出るのですよ」と一蹴された。一行には「この機会に古民家を覗いてみたい」という冷やかし組もおられたが、大半の方はネットや移住者との交信で当地について十分学習済みで、ドライブを兼ねて下見を済ませた方も幾人かおられた。取り扱い店がモダンだと客もモダンになるらしい。その中には、本命となる方もおられたが、すでに丹波移住を決意した上での現場確認だったようだ。

2 古民家との別れ

継承して下さった若いご一家は、「できる限り古民家の趣を生かして暮らしたい。明治16年に大阪から曾祖父が担いで帰った柱時計も、安政6年に曾祖母が嫁いで来た際の桜の箆筒も、明治時代の寒暖計も、昭和初期の茶箆筒も全部置いて行って下さい」との意向で我が家は感激。それなら殿様ではなく庶民が使っ



写真1 別れを惜しむ?野鳥

なったが、山林だけはアカン」と嘆くように、山林へのニーズは一般に無いのである。

駄目だったのは3反ばかりの農地で、「これも活用したい」だったのに、農業委員会の「年に180日以上農耕に従事する人でないと売ってはイカン」という壁に遮られた。兼業農家で180日も従事している人

た駕籠も、古道具屋が見放したからとて叩き壊すのではなかった、と後悔する。もつと感激したのは、林道をつけて間伐したばかりの山林を「ツリーハウスにして活用します」と、すんなり継承して貰えたことだ。本当の奥丹波、大江町や河守町出身の友人たちが「家屋は何とか使って頂けることに

が居るだろうか？

「この秋から早速使いたい」との積極的な意向なので、真夏を厭わず山林の境界を伐採し、杭を打って境を明確にした。八十路の翁には、これが一番きつい。そして床のワックス掛けを終えて迎えた10月1日、最後の朝の雨戸を開けたら、メジロかアオゲラのような野鳥が飛び込んできた。野鳥は人間を警戒し、燕を除けば先方から近づくことはないのに稀有なことである。全ての雨戸を開けて追い出しを図るが屋内を飛び回って居座る。ひよつとすると先祖の霊か土地の精が別れを告げに来たのかと思ひ、涙ぐんだ。ピアノで「埴生の宿」や「別れ（園の小百合……）」を弾くと柵から見下ろしながら「聞いてやるよ（写真1）」。出発は午後になった。

3 最大の成果は古文書

丹波市教委発刊の「丹波市の歴史的建造物Ⅰ（山南町・柏原町）」にも紹介された古民家を無事に継承して頂くことができ、歓びで一杯だが、最大の成果は、古民家整理によつて発見された数々の公的・私的な古文書であろう。次世代の人が発見しても、人名や地名

（特に今は使われなくなった小字）から得られる貴重な情報は理解できないのではなからうか。中でも新井村役場からお預かりしてきた明治中期の村の公文書は興味深いものであった。

明治22年に六か村で再編成された新井村は、大新屋集落の小学校校舎で業務開始した後、同28年に校庭内

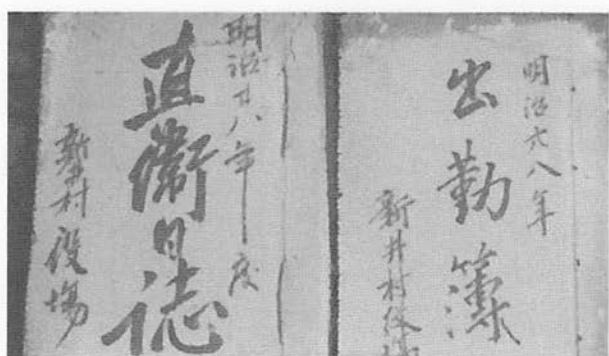


写真2 出勤簿と直衛日誌の表紙

に庁舎を新築し、さらに同43年には校舎改築に伴い新井村中心部である北山集落へ庁舎を移転改造する。その際に我が家の土蔵で預かった模様である。

一瞥して面白いのが出勤簿と直衛（当直）日誌（写真2）。何しろ水上郡役場の存在もあって「村三役」

以外の吏員は2〜3名しかいないから村長も宿日直を分担している。それも1か月ぶつ通しで。食事は家族や下男が届けるとしても、入浴は？田植えや稲刈りは？と同情する。それに真夜中でも郡役場から急使が来るから、安眠も出来ない。治安や災害の緊急連絡だろうか。当時の年末年始特別休暇は大晦日と三が日だけであるが、1日交代で当直している。無理に勤めに出なくていい「昔は庄屋だった」素封家ばかりなのに苦勞様！

読んでいくと、ご維新から30年経つても、村落の自治活動は江戸時代とさほど変わらず、従来の村、即ち区・部落が担っていることが判る。郡役所からの指示も、真面目に区・部落へ伝えていく。これは筆者が記憶している戦中・戦後の防災や農業共同作業の姿と同じである。

この文書に出てくる史実ではないが、明治10年代には沼貫村（役場は佐野）の一員だった我が母坪部落は、谷村部落での避病院（避病舎）建設に際し、火葬場を分担している。区・部落が重要な役割を担いながら法人の資格がなかったので登記できず、当時の区長だった筆者の曾祖父の名義で登記し、筆者にまで相続され

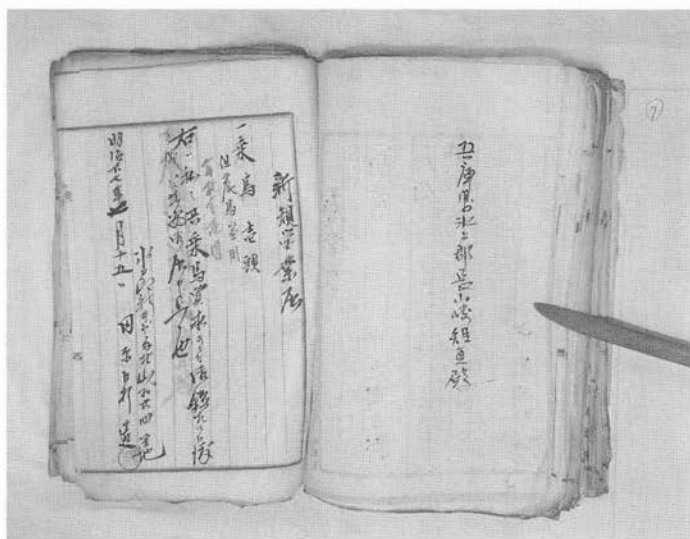


写真3 乗馬（貸し馬）の営業申請

てきたが、隣接地を所有する油利の方へ譲渡した。油利部落も何かを担当したのだろう。

フェイスブックに、この二つの公文書を載せたら、海外から「我が町にも古い当直日誌が史料館にあるぞ。

見に来い」との招待が来た。だが国内からの声は来ない。

もう一つの興味深い役場文書は、商工業の開業・廃業の届けである。柏原や黒井、成松のような市街地？ではなく、純粋の農村部であるから副業届けといってもよさそうだ。明治30年の阪鶴鉄道開通前の記録だから、鉄道開通と加古川水運凋落に伴う副業の変化が見られなくて残念だが、文明開化の影響でランプの販売が盛んになるのが読み取れる。

写真3は、北山の田原さんが明治27年に申請した「乗馬」である。近代風の乗馬クラブではない。貸し馬である。旅の芭蕉が馬に乗り、手綱を持った少年が

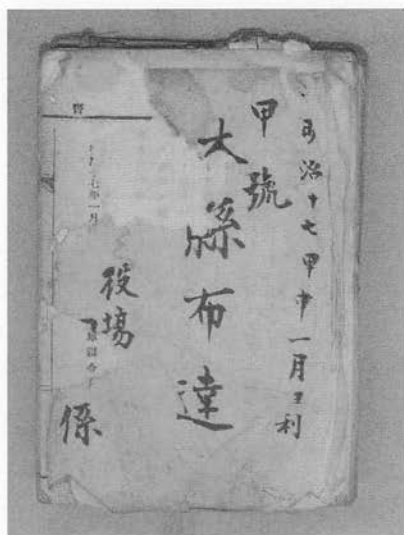


写真4 県からの布達

徒歩で従うというパターンの運輸業だ。もう人力車が走り回る時代なのに、こんな商売も残っていたのだ。但し「農馬」と兼用だから、農閑期の副業だったのかもしれない。

一方では、積極的に新規登録したものの、直ぐに廃業する人もいる。田原さんの申請と同じ頃、大新屋の中道さんは商業の鑑札を返納し、廃業している。

商業の登録の中で目立つのは、行商の多いことである。和田村のように茶や薬草の行商を生業とするほどではなく、あくまでも農業の副業であろうが、氷上盆地の中央に位置し、加古川水運の利便も活用して郡外へ出て行ったに違いない。もう戦後であったが、茄子苗満載の自転車を押して生野峠へ向かう青年たちの姿は忘れられない。

また写真4が物語るように、県からの布達を受けて村民を啓蒙するのも役場の大切な任務であった。読んでみると、教育と併せて保健衛生が県の重用施策であり、町村に避病院を建設させ、コロナやチフスと戦う姿勢がありありと見えてくる(続く)。

(満州奉天市生まれ／元防衛省勤務／(財)平和・安全保障研究所客員研究員)



■郷土について書かれた本

「丹波市内の延喜式内神社」

訪問記

非売品 丹波OB大学大学院
地域神社の歴史研究グループ編著

丹波OB大学大学院生5人、久下巧、下田新二郎、遠山良雄、西垣哲、三村強（敬称略）により、丹波市内の「延喜式内神社」を2年間にわたり現地調査をして纏められたものである。

そもそも、「延喜式」とは、千年以上前の延喜時代に編纂された朝廷の政治の仕組みを定めたもの。

そのうちの神名帳に記載された神社の中でも、国がお祀りすべき重要な神社とされ、全国に、2861社あるうちの18社が丹波にある。

調査項目は、主祭神、由緒、是非見えてほしいもの、ワンポイント、へえーそうなんや、そして最後に宮司さんからの一言が加わる。

各項目も地元民ならではの視点で書かれて懐かしく、いつの間にか時空を超えて遊んでいる幼い自分がそこにいる。

世の中が進化し、殆どのものが科学的に解明できる時代になってもなお、人は神頼みをする。

いわんや、古の人々が万物に神が宿ると信じ、敬い共生することは自然の成り行きだったことは容易に想像できる。

丹波のこれら神社は大小にかかわらず、いずれの神殿の屋根もつい見入ってしまうほどに複雑で美しいフォルムを成し、装飾品に至っては微に入り細に入る技の巧みさで、当時の最高の建



築技術、芸術が集積され匠の腕前を披露する晴れ舞台だったに違いない。

昨今話題の受賞画は、たった3度のボタン操作だけでAIが描いたものだという。

こんな風にして描かれた宗教画が、将来祈りの対象になる日が来るのだろうか。

何年もかかってコツコツ削り上げられた神社は、何百年の時を経てなお人々の手で守られ、人々の心を守っていく。

そこには魂が籠っているから心の拠り所となり得る。

丹波の風土を巡る楽しみがまた一つ増えました。この訪問記を携えて。

藤原ひさ子（山南町出身）

（数に限りがありますので購読ご希望の方は山ざる編集室までご連絡下さい。）



■郷土について書かれた本

丹波市生活環境部環境課編者

丹波里山文化物語―丹波の暮らしは里山とともに―

令和3年3月発行

最近はいノシシ、クマ、シカなどの野生動物が、街を疾走するニュースをテレビで見える機会が増えた。この現象の一因として里山の減少を上げるコメントーターが多い。里山を取り上げた本に「丹波里山文化物語」がある。この本では、里山は里のすぐそばにあって人々が里の生活に必要なものを調達する山のこと、と解説されている。

わたしの手元の資料では、昭和25年の第一次産業従事者は全産業従事者の約59%を占めている。この資料から、昭和25年には自然豊かな丹波市内（当時は水上郡）に多くの里山がみられたと推測できる。時が流れて平成28年に丹波市で実施されたアンケートによれ

ば「農地や山林の荒廃が進んだ」「開発により身近な自然が減少した」などの理由から家の周辺の自然環境に満足していないと答えた市民は約25%を数えた。その結果を受けて、心豊かに安心して暮らしていくために「人と自然の共生」をどのように実現すれば良いのかを考えて行こうとするのが本書である。

そのヒントを求め昭和30年代以前の丹波を知り尽くした方々に昔の生活体験や子ども時代の遊びについて平成26年から平成31年にかけて丹波市内の各地を訪ねて聞き書きを行い、編集する段階ではできる限り読者の地元らしい語り口を忠実に文章に起こしている。



丹波里山文化物語

丹波のくらしは里山とともに

こうして本書は誕生している。丹波市の面積は兵庫県では5番目に広く、聞き書きの範囲、内容も多岐に渡っている。このため、目次は以下のようになっている。1章、はじめに 里山文化資源基礎調査の様子、意義。2章、農村の四季と里山風景、3章、里山の恵み、4章、子どもたちの遊びとシゴト、5章、山稼ぎいろいろ（炭焼き、葉草、林業）、6章、里山こぼれ話、7章、まとめ 写真、図版も多く、読みやすい。あの時代はそうだったと相槌を打つ人も、昭和30年代以前を知らない人にも、丹波弁を懐かしく感じながら「人と自然の共生」を考えてもらえればと思う。

本城英明（水上町出身）

（読んでみたい方は、丹波市のホームページからダウンロードして読むことができます。）



■郷土出身の俳人について書かれた本

山崎祐子 著

『細見綾子の百句』

丹波人の矜持

ふらんす堂 ¥1650 (税込)

「丹波人の矜持」と副題があるように、細見綾子氏の躰にはどこまでも丹波の風土と匂いが溢れていた。帰省することを「丹波へ帰る」と言い、武蔵野市に建てた終の棲家は、芦田村実家山林の木材を用い、大工を呼び寄せ、庭には牡丹なども移植して、丹波の懐に抱かれた生活だった。

○野の巻頭は昭和四年二十二歳の句、百句の花にまじるさびしき吾亦紅

吾亦紅そのものが野の花であるにもかかわらず、敢えてまじると存在を際立たせ、さびしさを引き出している。

○掉尾は平成七年八十八歳の詠句、吾亦紅はつんぽつんと気ままなる

野の花ならぬ数多の俳人たちと切磋



琢磨し交じり合った六十六年を顧みた脳裏には、丹波の畦道や道端で気ままに揺れている吾亦紅が浮かび、自分を投影させたのだろうか。侘び姿ながら、孤高で凛とした野の花綾子が呼応する。丹波の初夏、そら豆や豌豆の美味しい季節、畑には蝶が飛ぶような花が満ちやがて瑞々しい豆が生る。感性豊かな青き味の断定には、ソールフードでもあったかと思ひ、悦に入った。

○そら豆はまことに青き味したり
○露の蔓喰べる空気を汚さずに
底冷えの冬を経て春の到来を告げる露の蔓。凍てる土中の厳しさを喰べる、丹波風土への畏敬であろう。喰らうことは生きること。

○生くこと何もて満たす雉子食ひつづ
○猪肉の味噌煮この世をぬくもらむ
丹波山野に共存共栄している雉子も猪も旬材になり、骨太の魂が貫いて、時に禅問答に、また猪に同化したり、と変幻自在である。柔の植物、剛の動物。命をいただきながらも、逡巡したり、温もったり、生を受ける命の美しさに添う心である。

二十二歳四月に逝去の母親は機織りの名手だったらしい。今でこそ「丹波布」は稀少民芸品であるが、当時は生活必需品だった。手織りの普段着を纏う気持ち、母共々に優しく柔らかく詠んだ句は清々しい。

○ふだん着でふだんの心桃の花
○木綿縞着たる單純初日受く

正月には必ず母親の縞木綿を着た。沢山の糸の交叉する縞模様は単純に見えて実は複雑。木綿縞のように単純こそが美しいとの勁い姿勢が見え、これぞ丹波人の矜持である。(原谷洋美)

◆泉 睿子

母睿子は2020年10月住み慣れた自宅から穏やかに父のもとに旅立ちました。享年98歳でした。両親ともに氷上郡出身者で「山ざる」が届くと懐かしく記事を読みながら故郷に思いを馳せていました。長い間大変お世話になりました。(長女様より)

◆本城 英明

いつもお世話になり、ありがとうございます。

◆杉岡 明美

コロナ禍のもと、立派な「山ざる」をお送りいただき会長様はじめ、皆様のご苦勞如何ばかりであったかと、嬉しさで感謝でいっぱいです。又、役員選出に関しても並々ならぬご苦勞があった事でしょう。私は来年こそはと期待して元気に暮らすよう努力します。有難うございました。

◆廣瀬 安伸・庸世

ご無沙汰いたしています。コロナの早期終息を祈っております。久しぶりに「ふるさとの会」でお会いしたいものです。

◆芦田 重秋

昨年逝去いたしました。長い間お世話になりありがとうございました。(ご家族より)

◆西川 宣孝

「山ざる」を楽しく拝読いたしました。丹波はだんだん遠くなりつつありますが、83歳になりましたが元気にゴルフを楽しんでいます。東京近郊のゴルフ場を厳選した「氷上ゴルフ同好会」を思い出し懐かしんでいます。

◆山岸 幸子

いつもお世話になっております。「山ざる」を楽しく懐かしく拝読しています。皆様にお会いするのを楽しみにし

ています。

◆徳田 邦男

令和5年度に関東氷上郷友会の会員になりました柏原町母坪生まれの徳田邦男です。よろしくお願ひいたします。

◆大塚 秀弐

柏原高校1年1学期まで野球部で楽しく過ごしました。3学期に大阪豊中学校に転校。やっぱり野球だけが楽しみでした。東京で1年予備校、早稲田大学を卒業の82歳です。

◆浅倉 成樹

すばらしい「山ざる」を送って頂きありがとうございます。小生の拙文を掲載していただき感謝しています。皆様のご健康をお祈りいたします。

◆野村 節三

こしばらくご無沙汰しておりました。米寿を迎えゆつくり余生をと思ってい

ましたが、当大船渡市老人クラブ連合会の会長を4月より務めることになり諸会合等で忙しい毎日を送っています。昨日は当地の「気仙高齢者大学大学院」の講義「生物学」を行いました。

◆藤田 千治・玲子

「露草に遠い故郷見ておりぬ」。皆さんにお目にかかりたいですね。

◆藤田 右一

令和元年11月 87歳で永眠しました。長い間のご厚情ありがとうございます。皆様の健康とご多幸をお祈り申し上げます。(ご家族より)

◆梅田 重二

令和4年7月に他界いたしました。今、日迄のご厚情誠にありがとうございます。(ご家族より)

◆金出 一郎

来たる12月22日には満87歳となります。

年齢相応とは申せ、年来の肺疾患に加え心臓の不全も加わり歩行に難渋しており、病院に行く以外は外出なしの生活です。

◆加賀山 次郎

令和2年1月 83歳で逝去いたしました。「山ざる」を仏壇に供えさせていただきます。(ご家族より)

◆安本 義正

3年前に退職してから仏像彫刻と仏画にチャレンジしています。奥が深く様々な「気づき」に感謝している今日この頃です。今後ともよろしく願います。

◆安井 俊夫

学び舎版「中学歴史教科書」の編集に取り組んでいます。柏原高校5回生です。

◆鶴田 ゆき子

ご無沙汰しています。去る3月9日夫(鶴田宏)死去、行年92歳、老衰でした。私にとっては昨年の秋から相次いで苛酷な日々の連続。無我夢中の1年でした。目下腰痛治療の為にハビリ訓練中です。口は達者です。

◆木下 忠

令和3年4月に亡くなりました。いつも「山ざる」を大切に読んでいました。今までお送りいただきありがとうございます。(ご家族より)

◆上 高子

総会キャンセル残念でした。来年こそ開催出来ることを願っています。

◆石橋 順子

いつもお世話になっております。先日(春)忌で皆さんにお会い出来ることを楽しみにしていました。丹波関係者は少なかったです。先日パワポでプ

レゼンしました。またよろしくお願
いたします。

◆足立 悦雄

コロナ以降ほぼ毎週の土・日曜日は
教授授業のお手伝いで、この役員会や
総会に参加することができず申し訳な
く思っています。

◆十倉 忠司

役員の皆様には日頃大変お世話様にな
っております。いつも「山ざる」を楽
しみにしております。

◆飯田 光雄

昨年はペースメーカーの埋め込み手術
等もあり、だんだん体力的にも衰えが
目立ち始めました。理事退任をお認め
頂きありがとうございます。総会の
再会を楽しみにしております。

◆善積 敏夫

令和3年3月に亡くなりました。今ま

でありがとうございました。(ご家族
より)

◆村上 督

何時もお世話になりありがとうございます
ます。

◆三木 亮

役員予定の方、継続の方ご苦労様です。

◆小林 和子

色々お世話になりありがとうございます
した。

◆井徳 正吾

マーケティングのコンサルタントの個
人事務所を設立し、マイペースでの仕
事をしています。ポケットマネーで相
談できるビジネスの駆け込み寺です。

◆近藤 利春

「山ざる」発行有難うございます。梅
雨の頃のエピソードです。ドアフォン

が夜中に鳴り録画がありました。しか
し人が映っておらず、誰かのいたず
ら？ 翌日昼間にもチャイムが鳴りま
したが人が居ません。何とかネットで
調べ、結露をドライヤーで乾かし、直
りました。この件を新聞に投稿した所、
読者が修理できたと反響がありました。
メディアの恩恵に感謝です。

◆坂上 登

私の趣味は囲碁です。古来遊びの中で
最も優れているものは囲碁であると言
わしめています。自分の人生の終局迄
飽きることなく、この奥深幽玄の世界
に没頭することに決めています。

(掲載順はお便りに到着順)

柏陵同窓会東京支部 令和5年度総会・懇親会の開催報告

令和元年以来4年ぶりとなる令和5年度の柏陵同窓会東京支部総会・懇親会を、7月9日(日)に学士会館で開催いたしました。お陰を持ちまして、東京支部の会員にご来賓や他支部の皆さまなどのご支援により130名もの同窓生にお集まりをいただき盛大に催すことが出来ました。5月柏陵同窓会本部・6月阪神支部の開催に東京支部が続きましたので、主催者といましては安堵いたしております。



7月9日に開かれた柏陵同窓会東京支部総会・懇親会の乾杯風景

準備と中止を繰り返して来ました。今回は1月の正副支部長・幹事学年・サポーターのZOOM会で7月の

総会開催に向け不退転意志を持ち準備を進めることを確認、4月の理事会に諮り決定しました。感染症5類に移行がなされた後も大規模宴会の開催には不安が残されていましたが、会場の対策とも連携し何とか対応出来たように思います。幹事学年は26回と27回の皆様です。

総会は、先ず過去1年間に亡くなられた会員に黙祷をささげた後、十倉直樹議長(28回生)を選出し会務報告・会計報告と監査報告・令和5年度予算などの議事を進めていきました。

2部柏陵セミナーと3部懇親会の準備は26回生の皆様にお願いました。セミナーの講師も26回生で、(株)村上社寺工芸社代表の村上英明さん(山南町)。演題は「日本の伝統工芸を継承する匠の技」。共に3回の中止を経

て万難を排しての登場となりました。飲食を介しながらの懇親も、すこしづつ用心をしながらですがテーブル毎の会話を楽しめるようになりました。

懇親会のお開きは、恒例の母校3校の校歌斉唱と応援歌の合唱に万歳三唱。旧制2校の卒業生のご出席はいらっしゃいませんが、同窓会126年をつなぐ歴史として懇親会締め括りの盛り上がりは記憶に残るものとなりました。

総会・懇親会には多くのご来賓のご出席をいただきました。ご挨拶を頂きました方々のお名前を記させていただきます。同窓会会長・大西伸弘様、母校校長・荒木和仁様、丹波市市長・林時彦様、兵庫県東京事務所所長・今後元彦様、丹波新聞社代表取締役社長・足立友宏様。同窓会各支部長にも乾杯ご発声、校歌指揮、応援歌指揮、万歳三唱などをお世話頂きました。有難うございました。

(柏陵同窓会東京支部長 谷 敬三)

4年間幹事学年を務めて



講師の村上英明さん

「出雲大社」、
「厳島神社」、
「善光寺」

8年前の平成27年1月、山南中卒業生の還暦同窓会の集合場所は、初詣を兼ね谷川の高座神社でした。その時の本殿の檜皮葺（ひわだぶき）の屋根は、葺き替え中で足場が組まれていました。職人が檜の1本1本に登って表層の樹皮を剥がし、それを持ち帰って大きさを整え、竹くぎを打って重ね合わせて3センチの厚さにし、それを何層も重ねて完成させるといふ檜皮葺を熱心に説明したのは村上英明君。私は彼が檜皮葺を専門とする「村上社寺工芸社」といふ会社を経営していること、檜皮葺職人は全国でわずか200人しかないこと、彼の会社は日本で1、2を

争う規模であること。など有名社寺を華麗優美に檜皮葺で葺き上げ、この世界では燦然と輝く素晴らしい会社故郷山南町にあるという驚きの事実をこの時初めて知りました。そして中学校以来のこの友がいなければ、この会社が無ければ、我が国の重要文化財は後世に残せないとの強い思いはこの時私の脳裏に刻まれました。この思いは8年後、令和5年の柏陵同窓会東京支部総会のセミナーで彼が講演することで実現しました。

令和元年7月13日、柏陵同窓会東京支部総会・懇親会に初めて出席した私は、幹事学年25回生の団結力に圧倒されることも大いなる不安を覚えていました。次期幹事学年として出席しているのは私を含めわずか2人。来年、我々26回生は幹事学年としての職責を果たせるのだろうか。

早速、同窓会名簿から東京支部エリ

アの同期名簿を作成、以前から親交のある友井君、高辻君、桂君の3人と会い、幹事団を結成、この名簿を基に、同期の輪を拡大することとしました。この輪は少しずつ広がり、新たに白髭君、荻野君、久下君、余田君が加わり8人となりました。以後この8人で折を見ては集まって親交を深めること3年。コロナ禍で3年もの間、支部総会の開催が見送られ緊張感に欠ける月日が続きましたが、この8人で何度も宴会を開催し旧交を深めることができました。同期は数ではなく、絆の深さだと思つた次第です。

幹事学年の職責を果たすことができましたのは、懇切丁寧に引継ぎをしてくださった24回、25回の先輩とご指導いただきました支部長以下執行部、事務局の皆様のおかげです。末筆ながらご出席いただきました会員、ご来賓の皆様と合わせて御礼を申し上げ、幹事代表の挨拶とさせていただきます。

(26回生幹事学年代表 田中和哉)

◆インフォメーション

ふる里丹波が育んだソリスト 二人の豊かなコンサート

◎ソプラノ歌手・足立さつきさん
ピアノリスト・多川響子さん

「足立さつき&大澤建ジヨイントリサ
イタル」が、三鷹市芸術センター・風
のホールで令和四年十一月三十日に開
催された。

丹波から世界へ羽ばたいた歌姫の声
が風のホールに響いた。ソロの歌声は
高く清く伸びやかに。バスバリトン・
大澤建氏との二重唱は時に愉快に時に
妖艶に、モーツアルト《ドンジョバン
ニ》など、歌曲の数々に酔いしれた。



副題「聖と俗のはざまで」とは、聖
なるソプラノと、俗は、曲と曲の間の
コミカルな所作かしら、と悲しいかな、
歌意の聴き取
れぬ身は思う
のだが、歌姫
が急に身近に
舞い降りて来



られたようで、
なにやら満足。

丹波新聞の小
田晋作氏が「プ
ラバー（プラボ
ーの女性形）」
を掛けられると、
丹波訛りがあっ
たのか、ニコッ

と微笑まれたように見え、やはり丹波
の歌姫だと、至福のひとつ時を、丹波人
七人で持たせて頂いた。（原谷洋美）



つてきた巨
匠たちの作
品ばかり。こ
れらのマエ
ストロを選

「多川響子ピアノコンサート（7月7
日、ルーテル市ヶ谷ホール）」
演奏曲はブラームス生誕190年が
メインというものの、ベートーベン、
シューマン、リストなど音楽史を形作



んだ時点で多
川さんの音楽
への意欲と気
迫がひしひし
と伝わってこ
る。彼女はも
う高校の単な
る後輩ではな
く、世界を見
据えた音楽家

なのだ。前半では力強いベートーベン
に始まり、時に優しく時に荒々しく森
の情景を音で紡いでいくシューマン。
リストの超絶技巧に果敢に挑む姿には
挑むことへの喜びさえ感じられた。そ
して、後半ブラームスの世界に自らが
没入し聴衆をもしざなっていく自信に
溢れた演奏。多川さんの音楽はひび割
れた大地に水が染み込むように私たち
の心を満たしてくれた。彼女は限りな
く音楽の求道者にならうとしている。
そんなことをも感じさせる演奏会だっ
た。（石橋順子）

丹波市生まれの千代栄関 新十両からの1年を追う

●後援会の「励ます会」で「元氣とパワーをもらった」

昨年7月場所です十両に昇進した丹波市生まれで九重部屋の千代栄関（33）。新十両からの1年を追う。実は昨年のインタビュ以来、取組が気になりテレビ観戦している。

【令和4年7月場所と9月場所】

新十両の7月場所は9勝6敗と好調なデビュー。9月場所も8勝7敗と勝ち越し、まずまずの出だしとなった。

【令和4年11月場所と令和5年1月場所】

ところが、11月場所は7勝8敗と振るわず、1月場所は5勝10敗まで負け越してしまった。十両を維持できると気をもんだ。

【令和5年3月場所（幕下）】

案の定、幕下陥落し、幕下2枚目からの再出発となった。幕下は13年経験

済みであるものの、付き人はなく、給金もない。大相撲中継の力士名も簡素な字体となり、勝負の世界の厳しさが伝わってくる。

この場所前の2月、千代栄関は丹波に帰郷し丹波千代栄後援会主催の「励ます会」に参加する。母校の春日部小学校で児童とも交流した。郷里で恩師や後援会関係者、後輩から励ましの言葉を受け、「元氣とパワーをもらった。落ち込んでいたひまはない」と意気込みを語っている。声援を受けた奮起もあり、5勝2敗と勝ち越し十両復帰を果たした。

【令和5年5月場所】

十両返り咲きの場所、是が非でも踏みとどまりたい。優しそうな千代栄関の風貌を覗いているといつもハラハラド



千代栄関手形（後援会
会員荻野展男氏提供）

キドキだ。
一進一退の
星取りが続
いた末、な
んとか8勝

7敗で勝ち越した。

【令和5年7月場所】

この場所前は立ち合いの踏み込み稽古を積んだと解説があった。7勝6敗でむかえた14日目、強く踏み込み、はたき込みをしいで張り合うも、体を交わしたところを押し出され土俵をわる。後が無くなった。と、その時「物言い」「まげつかみ」で相手の反則負け。勝ち越しが決まる。千秋楽は8勝7敗で終えた。これで9月場所の十両は確定した千代栄関。なかなか土俵上の接戦に目が離せない。みんなで応援しましょう。（近藤利春）

千代栄関の星取表

- 令和5年—
- ・7月（名古屋）場所
【東十両10枚目】8勝7敗
- ・5月（夏）場所
【西十両12枚目】8勝7敗
- ・3月（春）場所
【西幕下2枚目】5勝2敗
- ・1月（初）場所
【東十両11枚目】5勝10敗
- 令和4年—
- ・11月（九州）場所
【東十両10枚目】7勝8敗
- ・9月（秋）場所
【東十両11枚目】8勝7敗
- ・7月（名古屋）場所
【東十両14枚目】9勝6敗

◎寄附者芳名(2022年度)

岸本 勲様	二〇、〇〇〇円	梶原 やす子様	三、〇〇〇円	足立 武夫様	一、〇〇〇円
金出 武雄様	一、二、〇〇〇円	絹川 正様	三、〇〇〇円	足立 東一郎様	一、〇〇〇円
笹倉 鉄平様	一〇、〇〇〇円	木呂子 恵美子様	三、〇〇〇円	足立 美都子様	一、〇〇〇円
中山 昇様	一〇、〇〇〇円	坂上 勝朗様	三、〇〇〇円	足立 吉雄様	一、〇〇〇円
廣内 卓生様	一〇、〇〇〇円	坂上 豊様	三、〇〇〇円	飯田 光雄様	一、〇〇〇円
渡邊 貴美子様	一〇、〇〇〇円	杉山 繁實様	三、〇〇〇円	井出 恭子様	一、〇〇〇円
谷口 浩章様	八、〇〇〇円	勢 正彦様	三、〇〇〇円	植田 茂樹様	一、〇〇〇円
山口 敏之様	八、〇〇〇円	高見 秀史様	三、〇〇〇円	上田 雄彦様	一、〇〇〇円
上 高子様	五、〇〇〇円	鶴田 ゆき子様	三、〇〇〇円	白井 充弘様	一、〇〇〇円
大野 義昭様	五、〇〇〇円	徳舛 雅孝様	三、〇〇〇円	影山 一恵様	一、〇〇〇円
金出 一郎様	五、〇〇〇円	林 孝男様	三、〇〇〇円	粕谷 迪子様	一、〇〇〇円
谷口 捷様	五、〇〇〇円	原 利允様	三、〇〇〇円	杉田 明美様	一、〇〇〇円
堀川 隆川様	五、〇〇〇円	藤井 栄蔵様	三、〇〇〇円	正呂地 悟様	一、〇〇〇円
安本 義正様	五、〇〇〇円	藤田 純様	三、〇〇〇円	塚口 恭一様	一、〇〇〇円
足立 和孝様	三、〇〇〇円	藤田 千治様	三、〇〇〇円	徳田 邦男様	一、〇〇〇円
足立真一・松子様	三、〇〇〇円	安井 孝之様	三、〇〇〇円	西川 宣孝様	一、〇〇〇円
足立 敏昭様	三、〇〇〇円	吉田 素子様	三、〇〇〇円	野村 節三様	一、〇〇〇円
足立 義雄様	三、〇〇〇円	久保 良雄様	二、〇〇〇円	山口 泰男様	一、〇〇〇円
大坪 則夫様	三、〇〇〇円	本城 英明様	一、五〇〇円	山本 史郎様	一、〇〇〇円
大坪 眞子様	三、〇〇〇円	山本 述子様	一、一五二円	山本 喜則様	一、〇〇〇円
		浅倉 茂樹様	一、〇〇〇円	余田 幸夫様	一、〇〇〇円
		足立 さつき様	一、〇〇〇円		

本誌にご協力有難うございます ❖

YOKOHAMA

タイヤは、
雨で選ぼ。

BluEarth
AE・O1Fから

BluEarth-GT215に替えると

約**20%**短く
止まれる!

雨でもよりちゃんと止まれる
ウェットグリップ性能グレード「a」のタイヤ

400突破
サイズ
※2022年10月時点



ADVAN
Sport
V901



ADVAN
dB



ADVAN
FLEVA



BluEarth-GT



BluEarth-RV



BluEarth-RV
22K



BluEarth-XT

横浜ゴム株式会社 ☎0120-667-520 | www.yokohama.com/product/tire/

月に一度は空気圧の点検を。

※1 プレーキが動き始めるから車が完全に停車するまでの制動距離を測定する試験結果より算出。制動距離は、天候、路面の状態、車両の重量、乗客数、積荷などの条件によって異なります。【試験タイヤ】サイズ：205/60R16 52V、使用クルマ：6/17.5LJ、空圧値：260-240kPa、車検距離：変じ、進行方向：【試験条件】試験場所：当社テストコース（D-PAAC内蔵）、試験路面および状態：アスファルトによる一般舗装路面水深1.0±0.5mm、試験車両ドライバー：当社テストドライバー、制動初速：100km/h 【試験車両】車名：Audi A4（ABA-6WCV2018model、排気量：1.9T）、駆動方式：前輪駆動、全額試験タイヤ装着、重量条件：2名乗車状態、ブレーキ形式：全輪制動、ABS有



詳しくはこちら

❖ 本誌にご協力有難うございます

 損保ジャパン
SOMPO Innovation for Wellbeing

Innovation for Wellbeing

すべての人々の幸せと、より良い社会のために。
私たちは、笑顔と活力あふれる「確かな明日」へ、
イノベーションを起こし続けます。



NPO法人アジアの新しい風 理事長代行
<http://www.npo-asia.org>

上 高 子 (氷上町出身)

〒154-0016 東京都世田谷区弦巻 2-18-22-414
TEL / FAX 03-5426-6714
e-mail takako-ue@t05.itscom.net

コロナ禍ゆえに留学生がほぼゼロの2年半。ZOOMによるオンライン交流で現地の学生たちとつながり、なんとか凌ぎました。お陰でかれらの日本語会話力がかなり進歩したように思えます。日本に向いている彼らの芽を摘むことなく、日本語サポートをして行きます。ぜひ入会してサポートをお願いします。詳しくはホームページをご覧ください。



地元兵庫県産の酒米と神地寺山伏流水を用いた古式和釜、三段仕込み、糟搾りの創業以来、ほとんどスタイルを変えない伝統的な仕込み方法と、江戸時代より続く寒仕込みにこだわる

丹州米上之地酒

奥丹波

時代を経ても変わらない深い味わいと穏やかな香りの純米酒
そして、現代の酒造りの粋を極めた純米吟醸酒・純米大吟醸酒を仕込んでいます

創業江戸享保元年
山名酒造株式会社

TEL 0795-85-0015
www.okutamba.co.jp

山あれば
川がある
ふるさとよ


山にきつね
川にごんろく
ふるさとよ

まだ居るか
ふるさとよ

ふるさとを離れたあなたに、ふるさとの土の匂いを伝えます。

丹波新聞社 〒669-3309 丹波市柏原町柏原201
tel.0795-72-0530 fax.0795-72-1956

E-mail tanba@tanba.jp 丹波新聞 検索 ご購読はコチラから⇒



あなたの町の「石屋さん」
そんな石屋をめざしています！！

墓石・霊園・建築石材・造園石材

(株) 丹波総合石材

代表取締役 堀 公二 柏高 昭和 36 年卒

いしやは ここよ



☎ 0120-1480-54

事務所 〒669-3311 丹波市柏原町母坪425

工場 〒669-3314 丹波市柏原町拳田13-1

TEL 0795-72-3032

FAX 0795-72-4343

<http://www.tanba-sekizai.com>

今、求められている

新しいスタイルの物流トータルサービスをあなたに

情報誌・SP販促物などの梱包・発送管理、DM発送
データ入力等の情報処理、コールセンター、
事務局代行、在庫管理など一連業務を代行いたします

————— いつでもよりよいサービスを —————

BSS

株式会社ベターサービス

代表取締役 絹川 正 (山南町池谷)

本社：〒262-0003 千葉県花見川区宇那谷町 1501-2

TEL：043-257-0414 FAX：043-257-2865

<http://www.betterservice.co.jp>

e-mail：kinugawat@betterservice.co.jp

関西丹波市郷友会会報

たんぼ 第8号

(11月発行予定)

郵送料のみご負担にて配布致します

【申込先】 関西丹波市郷友会

会 長	公 江 茂						
副 会 長	大 槻 佐知子						
	芦 田 敬						
	田 晴 一 行						
常 任 理 事	足 立 栄 逸 池 畑 廣 士 郎						
	磯 尾 隆 司 博 西 伸 弘						
	岸 田 康 大 清 仁 藤 口 水 昭 景						
	田 中 なほみ 樹 欽 嗣 子						
	山 口 直 樹 洋						
	山 名 純 吾 博						
編 集 長	岸 田 隆 博						

ホームページ <https://goyukai.net/>

〒669-3309

丹波市柏原町柏原1747-2

TEL. 090-3623-6903 FAX. 0795-73-0198

事務局 山中 邦雄



関西丹波市郷友会会報
第8号 2023.11.1

丹波と東京を繋ぐ丹波のコンセプトショップ 丹波の心を伝える 丹波経済センター



春日局様の生誕の地「丹波市春日町」と、
眠る地「東京都文京区」を繋ぐ丹波のコン
セプトショップとして平成30年9月に

「丹波風土 東京春日店」を開業いたしました。弊社は丹波市春日町で
丹波の栗・黒豆・大納言小豆を中心にした加工品を製造し、更にその
加工品と丹波産の卵、牛乳、米、酒、フルーツ等を使った和洋菓子を
製造販売しています。今後丹波ブランドを守り広げる為に、田舎の
生産地と東京の消費地を結ぶ役割が担えたらと思っています。関東氷上
郷友会の皆様にも是非ご利用くださいますようお願い申し上げます。

株式会社 **やながわ** 兵庫県丹波市春日町野上野209-1



風丹
土波
東京春日店

〒113-0033

東京都文京区本郷1丁目35-26

ラレーブ文京本郷ビル1階

TEL 03-3868-5610

都営地下鉄 大江戸線 三田線 東京メトロ丸ノ内線 南北線
「春日」A1、A2出口より徒歩 「後楽園」4B出口より徒歩5

❖ 本誌にご協力有難うございます

希望と
うるおいのある
まちづくり



 JA丹波ひかみ

代表理事組合長 藤原 昌和

〒669-3461 兵庫県丹波市氷上町市辺440

TEL 0795-82-0170 FAX 0795-82-3658

URL <https://ja-tanbahikami.or.jp/>

E-mail thk.info@jamail.hyogo.jp



JA丹波ひかみ
ホームページ



JA丹波ひかみ
公式LINE

AMP (アドバンスド・メディカル・プランニング) をリードするクリニック



医療法人社団 廣和会
藤本クリニック

内科 整形外科 皮膚科 リハビリテーション科 訪問診療 居宅介護支援

理事長・名誉院長・医学博士 藤本 和幸

防衛医科大学校卒業 柏原高校・昭和52年卒業

住所 〒110-0002 東京都台東区上野桜木1-10-22

電話 03-5685-2151 <http://www.fujimoto-clinic.or.jp/>

廣和会 浅草二天門クリニック 埼玉東部診療所

各クリニック 中島クリニック 埼玉杉戸診療所

ふじクリニック

医療法人社団 友暖会 ともクリニック 理事長 藤本友友(長男)



心の通う目のホームドクターとして最高水準の眼科医療を提供します

医療法人社団 順孝会

あだち眼科

Adachi eye clinic

理事長・医学博士 足立 和孝

眼科専門医 順天堂大学眼科非常勤講師

順天堂大学医学部卒 柏原高校・昭和52年卒業



〒347-0015 埼玉県加須市南大桑1620-1

電話 0480-65-5988 相談専用フリーダイヤル 0120-55-3385

<http://adachi-eye-clinic.com/>

丹波を愛でる会ができました。

「丹波を愛でる会」は、ふるさと丹波をこよなく愛し、同じふるさとを持つ者とのぎずなを大切に思う人が集まる会です。

柏高昭和43年卒業の須原、近藤、村上、若松、赤井が発起人です。

主な活動は「ネット緑日・丹波産品を食べて、丹波の生産者を応援!」

四季折々の丹波のおいしいものを、

かつての緑日のような楽しさでご紹介します。

また丹波に縁のある人の活躍もお伝えしようと思います。

まずは気楽な気持ちでお電話、メールください。

赤井がお相手いたします



090-1596-3292



akai@g-lead.biz

【会員登録特典】

①みのりの里※自慢の干し芋プレゼント!

国産干し芋1袋プレゼントいたします。

※みのりの里とは、赤井が運営するネットショップです。

みのりの里で人気NO.1の干し芋1袋をプレゼントします。

②丹波のお正月食材割引予約

お正月には欠かせない黒豆、お餅をお得な価格でご予約いただけます。

前田尊 (20回) さん作品 きり絵 木の根橋



❖ 本誌にご協力有難うございます

イベント企画 有価証券取引 人事コンサル
夢企画工房 プロスタッフサービス

代表 林 孝男

東京都中央区日本橋人形町3-5-8
日本橋センチュリー21
<http://www.prostaffsvs.com>



丹波ふる里せんべい

小谷製菓



丹波市市島町上牧 663-1

TEL : 0795-85-0678

FAX : 0795-85-2512



kotaniseika.com



ユーロボックス
EuroBox
万年筆と寫真のある書齋

万年筆の販売・修理・買取・委託販売
時給万年筆の鑑定・買取

東京都中央区銀座1-9-8
奥野ビル 407

TEL : 03-3538-8388



euro-box.com



EuroBox©

株式会社ナレッジリンク
足立国際会計事務所

代表取締役
税理士・米国公認会計士 (Certificate)

足立 知佳子

〒152-0035 東京都目黒区自由が丘一―三―四UIW11自由が丘ビル六〇二
TEL 〇三―三七―八八〇四七 FAX 〇三―三七―八八―四七
E-mail : cadachi@ata.gr.jp

マーケティング・コンサルタント

井徳正吾事務所

Eメール : business@officeitoku.com
Web サイト : <https://www.officeitoku.com>

神奈川県立高校英語科講師
英検一級、全国通訳案内士 (英語)

石橋 順子

E-mail: ykmarch@ab.cyberhome.ne.jp

PCC大洋

岡 吉 明

〒351-0014 朝霞市膝折町四―四―三〇
TEL 〇四八―四六〇―一六〇一
FAX 〇四八―四六〇―一三九七
<http://www.pcc-taiyo.co.jp>

岡田 昌子

金 出 一 郎

にれの木 20
(20回生部会)

木呂子
惠美子

岸
田
勇

坂
上
豊

坂
上
勝
朗

坂
上
明

仲 一 聡

高 見 秀 史

いい眠りのためのNPO法人…
SASネットメールマガジン
magazine@sas-j.org をご覧ください。

柏陵同窓会東京支部 支部長

谷 三 敬

東京都 豊島区池袋本町四―二二―十七
TEL 〇三―三九七―七八二六
携帯TEL 〇八〇―三三九九―七二四七

谷 口 浩 章

鶴 田 ゆ き 子

エネクスフリースト株式会社
執行役員 広域・法人カード部長

土 井 聖 司

〒532―0004 大阪市淀川区西宮原二―一―三
SORA新大阪21ビル17F
電話 〇六―六三五―五五七六

日本舞踊
西崎 祥
端唄
根岸 妙

〒224-0032 横浜市都筑区茅ヶ崎中央五六一九一七二二
電話 〇九〇-九九七七-七七九三

株式会社 埼玉りそな銀行 桶川支店
支店長

西出達郎

〒363-0013 埼玉県桶川市東一-一-一十八
TEL 〇四八-七七三-一四八一
FAX 〇四八-七七三-九五四二
http://www.resona-gr.co.jp

西山裕三

〒669-4302 兵庫県丹波市市島町
中竹田 一一七一

かおりよし農園
こしひかり他主食用米・紫黒米・雑穀米・生産販売

田中 忍

〒669-3642 丹波市氷上町香良三-一三
電話 〇九〇-二五九四-〇七四六

原谷洋美

株式会社 メイク

代表取締役 広瀬寿和

〒160-0003 東京都新宿区本塩町二十三第三田中ビル
電話 〇三-三三五四-〇二二一
FAX 〇三-三三五四-二三二一

藤原ひさ子

エネクスフリースト株式会社
関東支店 支店長

川畑政成

〒346-0003 埼玉県久喜市久喜中央一―一二二十
久喜駅前西口再開発ビル五階五〇九号
電話 〇四八〇―二九一―〇六〇

青葉山 真照寺 (都立八王子霊園隣り)
八王子 青葉霊苑 墓地分譲 案内中
和合廟 (永代供養墓) 受付中
住職 堀井隆川

〒193-0821 東京都八王子市川町四九三―一二
電話 〇四二―六五二―二〇一一
FAX 〇四二―六五二―二〇三三

現場を歩き、現場で考える

Gemba Lab

代表・ジャーナリスト

安井 孝之

(日本記者クラブ会員、 東洋大学社会学部非常勤講師)

Gemba Lab 株式会社

〒278-0031 千葉県野田市市根 218-10

TEL: 090-1114-8071 e-mail: yasui@gembalab.jp



郷友の皆様へお願い

▼同じふるさとをもつ者の親しさは、親兄弟にも似て快よく、その気がねのない交りは、互いに清新なはげみと呼びおこします。そんな仲間のひろがりやを、この小誌は求めつけます。

▼この雑誌は毎号全会員に贈ります。同郷者の全員が会員ですから、登録のない方や住所変更等がありましたらぜひお知らせください。

▼関東氷上郷友会は、すべて有志のボランティア活動によって運営されています。『山ざる』誌や通信費等の資金源も、有志の寄付、協賛広告料、郷友会会費等によって支えられています。

▼広告料は名刺広告五千円、一／三頁広告二万円、半頁広告一万五千円、全頁広告三万円です。何卒ご協力お願い致します。

▼年会費の二〇〇〇円は会の運営を支える重要な資源です。同封振込用紙にてお振込みください。よう願ひ上げます。

▼これだけ充実した会誌をもつ同郷会はないとうらやましがられるたびに、“丹波のきずな”の強さを思います。

(山ざる編集部)

編	集
後	記

★天頂しか見えない鴨庄
小の天体観測ドーム(?)
について質問状を十数名
に発送したら、同校勤務
体験のあるご子息から

「アレはプラネタリウム」との速達の
返事。救われました。「丹波を撮る」は
在郷知人の尽力で運営されています。

(徳田)

★陸の燈台のような白亜の建物は明石天
文科学館。14階から淡路島と明石大橋の
近さを体感し、プラネタリウムでは四季
の星空を満喫。丹波では天の川が見られ
たな、と空を見上げる幸せを思い出した
猛暑の一日を過ごしました。(原谷)

★オランダから知人の女性とお孫さんが
来日され箱根と湯河原にご招待しました。
シンガポール1週間、日本3週間の旅!
まだまだ日本はバカンス後進国だと実感
しました。(山口)

★いつの間にか番記者のように千代栄関
の1年をインフォメーション欄に書きま
した。丹波千代栄後援会の友人が送って
くれた手形や丹波新聞を参照しました。
関取には、年輩流で精一杯頑張つてほし

いと思います。

(近藤)

★芥川賞の「ハンチバック」を読んでび
つくり。ようこそまであからさまに書け
るわ!と思いつつ著者のモチベーション
は「怒り」だと知った。受賞後の感想は
「復讐は虚しい。怒りより愛の作家に変
りたい」と。「山ざる」は上品で無難で、
炎上する記事はあまりないかな。(上)

★夜のテニスコートに立つと、昼間の灼
熱地獄がうそのように涼風が吹く。目を
上げるとのけぞるほど大きいスーパーム
ーンが昇っている。役者が揃った今、「サ
ープ行きまーす!」「フオールト!!」。
人生そんなに甘くない。(石橋)

★氷上中学校本校と呼ばれていたとき、
卒業記念行事として山林組合の協力で
「うさぎ追い」がありました。今の時代、「う
さぎ追い」は動物虐待だという意見が出
るようになりました。(本城)

★今号はマイギャラリーが2頁になり、
寂しいと思います。会員の皆様の趣味の作
品をもっともつと掲載させて頂き、それ
を機会に同好の会員との交流が増えれば
最高なのですが...との思いで一杯です。
次号では又4ページの作品が掲載できれ

ばと期待しています。絵画、写真、手芸、
絵手紙、等々お待ちしています。(岡)

★54号は118頁の出来上がりとなりま
した。近年では最も薄い「山ざる」です。
会員数や広告の減少が続いていますが、
新しい寄稿者もあり、読み応えのある誌
面になったと思います。インタビュアーで
登場いただいた柳川拓三さんも大事にさ
れている「縁尋機妙」で寄稿者が次号も
増えるよう願っています。(安井)

山ざる 第54号 定価500円

令和五年十一月一日発行

- 〈委員〉 井徳正吾 石橋順子 上 高子
岡 吉明 岡田昌子 近藤利春
徳田八郎衛 原谷洋美 藤原ひさ子
本城英明 安井孝之 山口敏之

発行者 関東氷上郷友会会長岸本 勲

〒351-0014 埼玉県朝霞市膝折町4-4-30

関東氷上郷友会事務局(岡吉明)

☎〇四八(四六〇)一六〇一
振替〇〇一〇一三二二二三三〇

製 作 株式会社ニ玄社
編集協力 ダイワコムズ



書写教育の第一人者による手本。

きれいな文字の書きかた

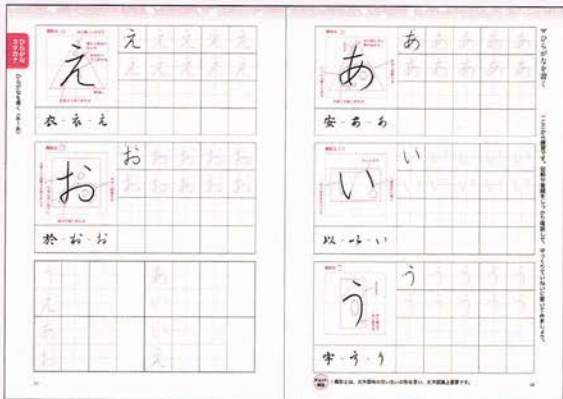
[書き込み式練習帳]



宮澤正明 著

B5判・160頁 ● 1500円+税

書写教科書の執筆者として、定評ある著者の手書き文字を手本に、なぞり書きを交えながら実際に鉛筆やペンで反復練習。ひらがな・漢字のおさらいから、ハガキ・手紙の書き方まで、整った「きれいな文字」を身につけるための書き込み式練習帳。



美しい毛筆の書きかた



宮澤正明 著

日常の文字まで綺麗になる毛筆文字学習ガイド。「基本点画」の徹底した練習と、「字形の整え方」のポイント指導の実践を積み重ねる。 B5判・208頁 ● 2200円+税

標準 硬筆字典 [改訂新版]



石川芳雲 編

頻用される漢字3053について、楷行草の三体および旧字体・書写体の最も標準的な字例14507字を、編者の美しい手書きにより50音順に収録。 A5判・320頁・函入 ● 3000円+税

大人が学ぶ小学校の漢字

[なぞり書き練習帳]



宮澤正明 著

教育漢字1006字の楷・行・草書の三書体をマスター。小学校レベルの漢字を練習するだけで、キレイなくずし字が身に付く練習帳。 B5判・160頁 ● 1500円+税

大人が学ぶ中学校の漢字

[なぞり書き練習帳]



宮澤正明 著

中学校で学ぶ漢字1130字の楷・行・草書の三書体を網羅。ポイントを学びながら、キレイなくずし字が使えるようになる練習帳。 B5判・178頁 ● 1800円+税

株式会社二玄社 代表取締役 渡邊也寸美



二玄社

〒113-0021 東京都文京区本駒込 6-2-1 Tel.03-5395-0511 Fax.03-5395-0515 <http://nigensha.co.jp>